

VIII 道路状遺構

第191図 道路状遺構

塔頭遺跡の南西部で長円形、または円形の連続した落ち込みが検出された。道路状遺構として調査を行なったが、道路跡としての明確な根拠を得ることは出来なかった。但し本章では、他に適切な遺構名が考えられないので、調査時のとおり記載する。

第1号道路状遺構 (第191図)

南端がV-13グリッド内で検出され、僅かに蛇行しながら北に向かい、R-13グリッド内で見られなくなる。全長は約38mである。走行方位はN-1°Eと、ほぼ南北に走っている。

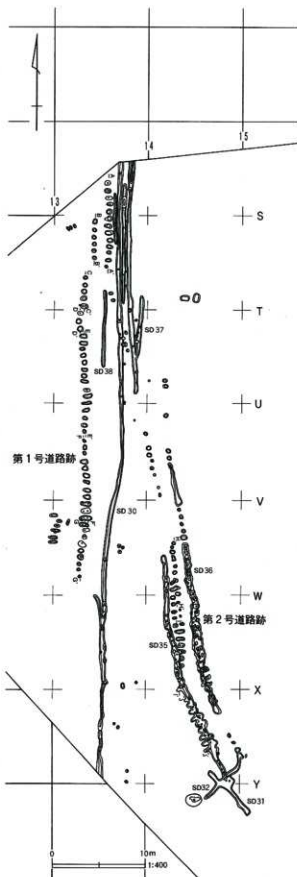
落ち込みは、いわゆる波板状ではなく、浅い土坑が連続した状態である。規模は幅があり、長径36-147cm、短径23-57cmで、深さは1-13cmと極めて浅い。全体では、北半が小さく、南半がやや大きい傾向が窺える。覆土は、砂質土によって充填されており、人為的に埋め戻された痕跡を掴むことは出来なかった。硬化面は検出されなかった。

S-13グリッド内では、東側に連続する落ち込みが検出され(A-A)、調査区域外に至っていた。このため一部では落ち込みの列が並行していた。この部分を合わせると全長は43mとなる。

しかし、前述したように道路跡としての根拠に乏しく、他の遺構の可能性も考えられる。その一つが溝跡である。本遺構の東側にはほぼ同じ方向に第38・30・37号溝跡が走っている。本遺構が極めて浅い溝跡の底面の痕跡とすると、これら3条の溝跡と同様と考えられる。また、規則的な配列から畑の畝の一部とも考えられるが、何れにしても断言できない状態である。

第2号道路状遺構 (第191図)

全体的な形態は第1号道路状遺構と似ている。南端はX-14グリッド内で検出され、北西方向に約9m走った後、北方に向きを変えて約16m走り、V-14グリ



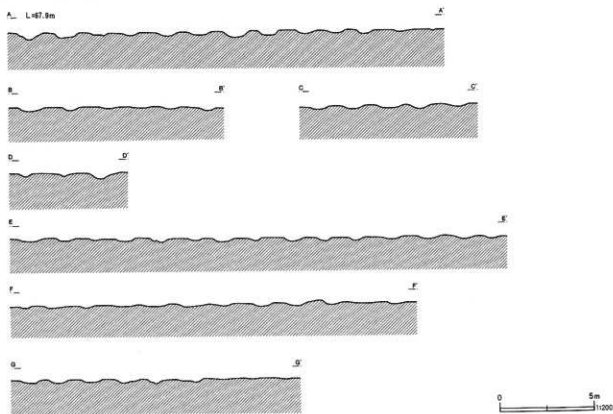
ッド内で検出できなくなる。方向を変えた後の走行方位はN-5°-Wである。

落ち込みの規模は長径38~144cm、短径29~58cm、深さ3~18cmで、南半が北半より大きいようである。一部では2列になって並行する箇所が見られる。覆土

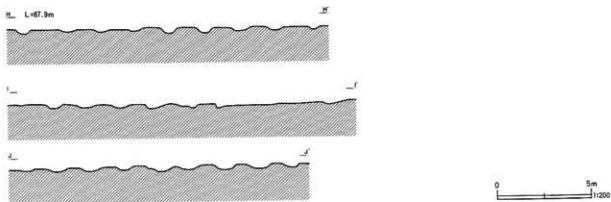
が砂質であることや、硬化面が検出されなかった点は第1号道路状遺構と同じである。

また、本遺構と並行または交差するように第35・36号溝跡が走るなどからも、第1号道路状遺構と同様のことが考えられる。

第192図 第1号道路状遺構



第193図 第2号道路状遺構



IX その他の出土遺物

1 地神遺跡グリッド出土遺物

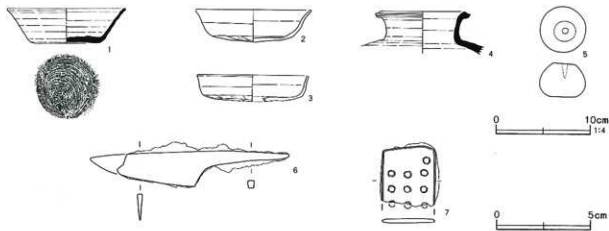
(第194図)

地神遺跡の小ビットやグリッド出土の遺物を一括した。

5は、用途不明の石製品で、形状から有穴球状石製品とした。やや扁平な球状で、小穴が穿たれており、上下面が平らに加工されている。類似するものは、坂戸市宮町遺跡、毛呂山町堂山下遺跡、熊谷市光屋敷遺跡、深谷市居立遺跡等で出土しており、浦和市大久保新田遺跡、坂戸市稲荷前遺跡A区、深谷市ウツギ内遺跡では土製の有穴球状製品が出土している。

6は、切先を欠損した刀子である。近世の所産と考えられる。7は、鉄製の小札と考えられる。10個以上の小穴が見られる。

第194図 地神遺跡グリッド出土遺物



地神遺跡グリッド出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.4)	3.7	6.6	ACF	A	灰	70	V-49 P 46	未野産
2	坏	12.2	3.4	7.8	AB'G	A	橙	100	T-41 P 2	内外面表面剝離
3	坏	(11.6)	3.3	10.5	AB'G	B	にじい橙	40	U-42 P 16	内外面磨耗
4	短頸壺	(9.0)	4.5		AF	A	灰白	5	T-50 P 5	外面全面と内面口縁部に自然輪付着
5	有穴球状製品	径4.9cm、高3.6cm、重さ77.55g V 47 安山岩								
6	刀子	現長9.2cm、刃幅最大1.9cm、背幅0.3cm、重さ19.33g R-38								
7	小札?	現長3.2cm、幅2.9cm、厚さ0.2cm、重さ11.79g P67								

2 塔頭遺跡グリッド出土遺物

(第195図)

塔頭遺跡の小ビットやグリッド出土の遺物を一括した。

1は高台付の椀で、高台が高く、土師質である。

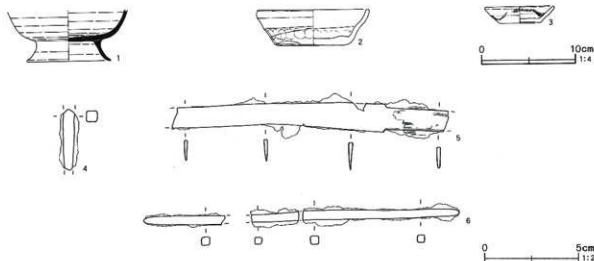
3はかわらけで、内外面全体に黒く油煙状のものが付着し、特に口縁部中位で厚くなっている。

4は角棒状の鉄製品で、上下を欠損している。

5は刀子で、切先と茎尻を欠損している。両面で、刃はあまり尖っていない。茎部には柄木かと思われる木質が付着している。

6は角棒状の鉄製品で、3片に分かれ接合はしないが、同一のものと考えられる。

第195図 塔頭遺跡グリッド出土遺物



塔頭遺跡グリッド出土遺物観察表

番号	器種	口径	高さ	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	高台付碗		5.4 (8.8)		AB'CG	C	橙	30	L-3	産地不明 土師質
2	環	11.7 (7.2)	3.8	7.9	ABC	A	にふい湯	100		全体的にいびつ
3	かわらけ		1.8	(4.2)	AB'G	A	黒	50	T-18P 9	全面油煙付着痕
4	鉄製品	現長3.2cm、断面幅0.6×0.6cm、重さ3.95g P13 角棒状の破片 両側欠								
5	刀子	現長14.7cm、刃幅最大1.5cm、背幅0.2cm、重さ20.31g P2 切先・茎尻欠								
6	鉄製品	現長左から4.3・2.5・8.4cm、断面幅0.5~0.4cm、重さ計11.09g P18 角棒状の破片								

3 地神・塔頭遺跡出土石器 (第196・197図)

地神遺跡、塔頭遺跡出土の石器類を、出土遺構やグリッドを問わずに一括した。

1は、黒色頁岩製の打製石斧である。上部は折れによって欠損している。刃部は表面の剥離の後に、裏面の剥離が細かく行なわれている。地神遺跡内U-45グリッドの出土である。

2は、砂岩製の打製石斧である。上半を欠損しているが、短冊状になると考えられる。表面刃部には調整がなく、もっぱら裏面に見られる。主要剥離面は裏面の左中央部である。地神遺跡第556号土坑、覆土上層からの出土である。

3は、ホルンフェルス製の打製石斧である。右側縁上部に欠損が見られる。表面に自然面を大きく残している。挟りは両側縁からの大きな剥離で作り、表面にやや大きめの剥離、最後に細かく急角度の剥離で作っ

ている。塔頭遺跡第2号住居跡の掘り形からの出土である。

4は、黒曜石製の男女会型のポイントである。左側縁部は大きな剥離の後、急に細かい剥離が施されている。右側縁下部は一回で折損している。地神遺跡第31号住居跡の掘り形からの出土である。なお、出土地点の周辺にテストビットを設定したが、何も出土しなかった。

5は、チャート製の石鎌で、完形品である。基本的には、表面の剥離が新しいが、先端部は裏面の剥離が新しく、規則的な剥離とは言えない。

6から10は黒曜石製の石鎌である。

6は、下端部を表側からの力によって欠損しているが、本来は挟りを持つと考えられる。第1号倒木痕からの出土である。

7は、先端部の形態が歪んでいるが、先端欠損後、新たに細かい調整が施されたようである。塔頭遺跡R-43グリッド出土である。

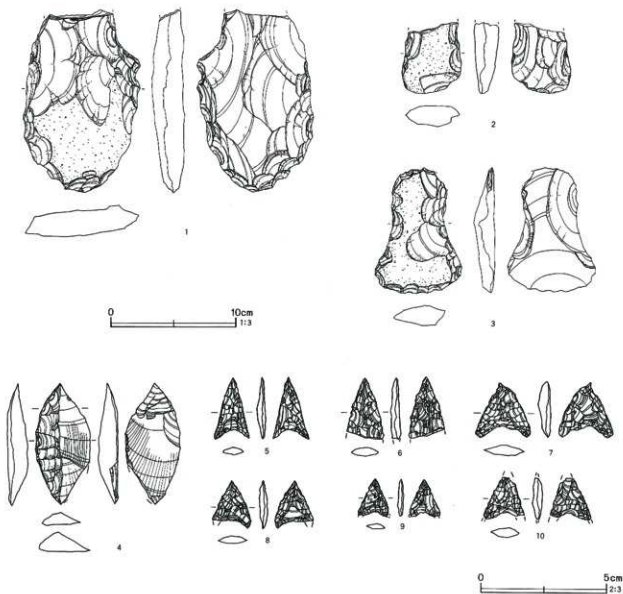
8は、左下端部を欠損している。表裏面共に左側縁部が最終的な剥離である。塔頭遺跡内のV-19グリッド出土である。

9は、両下端部を僅かに欠損するが、折れの方が異なることから同時ではなく時差があったと考えられ

る。主要剥離面は裏面左側からで、大まかな形を作ってから細かい剥離を行なっている。地神遺跡内のR-43グリッド出土である。

10は、上端部および両下端部を欠損する。肉厚の基部を側面からの剥離によって形成し、手を加えたようである。主要剥離面は残っていない。塔頭遺跡内のU-23グリッド出土である。

第196図 地神・塔頭遺跡出土石器



地神遺跡住居跡新旧対照表

新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
1	8	13	46	25	15	37	26
2	9	14	2	26	17	38	25
3	43	15	1	27	16	39	27
4	20	16	3	28	44	40	29
5	42	17	4	29	18	41	30
6	41	18	6	30	19	42	31
7	40	19	7	31	21	43	32
8	35	20	10	32	22	44	34
9	38	21	11	33	23	45	33
10	39	22	12	34	24	46	45
11	47	23	14	35	37	47	36
12	48	24	13	36	28		

掘立柱建物跡新旧対照表

新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
1	J-6	7	J-4	13	T-1	19	T-8
2	J-7	8	J-5	14	T-2	20	T-7
3	J-8	9	J-9	15	T-3	21	T-9
4	J-1	10	J-10	16	T-6	22	T-10
5	J-2	11	J-11	17	T-4	23	T-12
6	J-3	12	J-12	18	T-5	24	T-11

倒木痕
新旧対照表

新	旧
1	SK545
2	SK546

竪穴状遺構
新旧対照表

新	旧
1	J-SJ5
2	T-SJ1

地神遺跡井戸跡
新旧対照表

新	旧
2	SK445

塔頭遺跡土壇
新旧対照表

新	旧
191	SE2

塔頭遺跡住居跡
新旧対照表

新	旧
1	4
2	2
3	3

X 結 語

1 遺物出土の倒木痕について

地神遺跡では6か所以上の倒木痕が確認され、塔頭遺跡を含めるとその数は20か所近くとなる。そのうち地神遺跡の2基の倒木痕から、古墳時代前期の土器が完形あるいはそれに近い状態で出土した。2基の倒木痕は約4.5m離れており、南西と西南西に倒れている。同時期の住居跡は、地神遺跡の東端と西端で検出されているが、2基の倒木痕がある中央付近では検出されていない。

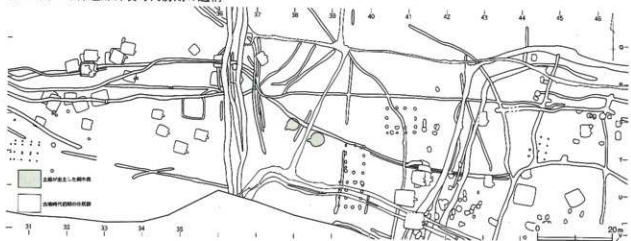
第1号倒木痕からは壺3、甕1、台付甕3、器台1が出土し、このうち壺の1点は胴部が穿孔されている。これら以外にも口縁部や底部の破片から甕、台付甕(S字口縁)、小型壺が各1～2点認められる。第2号倒木痕からは壺4、小型壺4、甕1、台付甕3、器台7が出土しており、接合率が極めて良く、他の個体はないと考えられる。第1号倒木痕で注目されるのは、胴部穿孔土器が含まれている点であり、第2号倒木痕では器台が多いことである。また、2基の倒木痕の周辺には住居跡が検出されず、特殊な空間と意識されていたように見える。これらの点からこの倒木痕は祭祀関連と思われる。

遺物の出土状況は、2基共に北西側(木の幹の北側)に集中し、出土レベルは倒木範囲の縁側が高く、内側に向かって低くなっている。出土土器が同時の第197図 地神遺跡古墳時代前期の遺構

点で倒木痕に入ったかは、土層観察では判断できなかった。しかし、遺物の出土状況や全ての個体の破片が揃っていない状況から、木が立っていた時点で根本に据え置かれ、木が倒れた時に巻き込まれたとするのが妥当ではないかと考える。このことからこの祭祀は木を対象にする祭祀と考えたい。一方、2本の木の北側に立つと、その間からは上武の山々が望めるため、山への信仰も考えた。しかし、現代人の我々の目からは特に高い山や、信仰の対象となりそうな山は見られない。やはり現時点では木への祭祀とするのが適切と考える。

祭祀関連遺跡で古墳時代前期に限れば対象が木となっている遺跡は県内には見られず、全国的にも管見に触れる遺跡はなかった。そこで古墳時代とすると、愛媛県宮前川北斎院遺跡、群馬県中筋遺跡、黒井峯遺跡等が見られ、県内では城北遺跡がある。

宮前川北斎院遺跡では、宮前川の川べりに胸高径2m、根のはり28m、高さ10mを越えるクスノキの巨木が立ち、その根本50m余りに2800個体以上の3世紀の土器や土製品が出土している。出土土器のうち甕が1000個体以上で、壺、坏、椀、小型丸底壺がそれぞれ200個体を越える。巨木が祭祀の対象として格好の存在であるとするものの、外来系土器とミニチュア土



器が多いことを特徴の一つとして、河神信仰あるいは単なる祭祀ではなく、港津的性格と考えられている(大滝・須藤他1986)。また、遺跡の性格として松山平野の中心的集落を想定し、巨木のまわりに土器群が集中する点から聖樹信仰、「竜?」の線刻土器から河神信仰とする指摘もある(石野1991)。

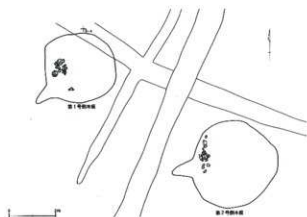
中筋遺跡では、木(樹)の根元周りに土器を集めて、土器の中に滑石製の未製品が納められていた。土器は5世紀末の土師器杯5点が全て正位で、1点以外は各2点づつ重ねられ、このうちの1点から滑石の破片・屑片が認められた。このことから樹の祭祀の存在が指摘されている(大塚1993)。

黒井峯遺跡では、径約2mのドーナツ形の盛土の中から、6世紀の土師器甕・杯、須恵器杯、滑石製白玉が出土しており、これらは太さ約30cmの木の根元に祭祀終了後の道具類を埋めたときれている。そして、この木を神々の依代(よりしろ)としている(子持村誌1987、石井・梅沢1994)。

城北遺跡では、5か所の祭祀跡が検出されている。第1号祭祀跡は集落の縁辺部にあたり、1.6×1.8mの範囲に滑石製模造品が伴う土器集積状の遺構である。出土土器は、土師器杯が230点以上と圧倒的に多く、他に甕、壺、鉢、高杯、甗、短頸壺、埴、碗等があり、穿孔土器が5点見られる。滑石製模造品のうち、剣形品と有孔円板は土器群北側に接するピットの周辺に集中しており、ピットに木柱ないし枝状のものを樹立させ、土器群に向けて吊り下げたと推察されている。また、土器群南側には樹根の痕跡が検出され、樹木の傍らで営まれた祭祀の可能性が指摘されている。祭祀跡の時期は土器群周囲のII地表面には6世紀初頭とされるFAブロックが存在する一方で、土器群下の地表面にはFAブロックが存在しないことからFA降下直前の短期間に集積されたと考えられている(山川1995)。

以上、祭祀関連で木が祭祀の対象と考えられる遺跡の概略を記したが、規模の大小や器種構成の違いはあるものの、当然のことながら何れも木の根元あるいはその近くに土器類を置いている。しかし、その置き方

第198図 第1・第2倒木復



にはそれぞれに相違点が見られる。宮前川北斎北遺跡では、木の北東側から北西にかけて多くの土器類が出土しているが、木の直下より5~10m程離れた地点からの出土が多い傾向が見られる。中筋遺跡では、木の根元回りに土器を置いており、黒井峯遺跡では、根元に盛土によって祭祀終了後の土器を埋納している。城北遺跡では、木の北側に土器を集積させている。地神遺跡では、木の北側に土器を置いていたが、大風による倒木という自然現象によって土中(倒木根内)に埋まってしまっている。黒井峯遺跡は祭祀終了後の土器を埋納するという形態をとるが、他は基本的にには置かれたままである。

地神遺跡では、倒木という現象で土器が地中に巻き込まれたと考えられる。逆に、倒木が起らなかったらどのような状況であったのであろうか。仮に土器の検出は可能としても、木の痕跡(根痕)が確認できなければ木に関する祭祀との判断は難しいであろう。また、地表からの深度が浅ければ耕作などの攪乱を受けることも考えられる。木を対象とする祭祀遺跡検出例の少なさの一因とも思われる。

現代でも神社の境内などに御神木と呼ばれる木を見かけることがある。古代においても、木自体の神や木に降臨する神に対する祭祀が行われていたであろうことは容易に想像できる。今後、木を対象とする祭祀の事例が増加すれば、詳細な検討が必要となると考える。

2 中世土器について

塔頭遺跡の中世遺構は、井戸跡、土塼、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、区画溝などがある。なかでも井戸跡、土塼から多数の遺物が確認された。ここでは、これらの遺構から検出された遺物の分析を行いたい。

第1、3、4、5、11、12号井戸跡から比較的多量に遺物が出土した。第1号井戸跡は瓦質鍋と瓦質播鉢による構成である。第3号井戸跡は井戸跡の中で最も多量の遺物が確認された遺構である。中世前半代の常滑甕片と瓦質片口鉢も僅かに認められたが、大半は瓦質の播鉢と鍋によって構成されている。第4号井戸跡はわずかな瓦質鍋、播鉢片が出土した。5号井戸跡は瓦質片口鉢が主体で、それに加えて常滑甕、山茶碗系片口鉢などの搬入品の破片が認められた。第11号井戸跡からは、他の遺構と異なり土師器皿と渥美甕の破片が確認された。土師器皿は大半がクロコ土師器であったが、わずかの京都系の非クロコ土師器が認められた。第12号井戸跡からは山茶碗系片口鉢と瓦質片口鉢、瓦質壺の破片が検出された。

土塼出土の遺物は、いずれの遺構も僅かの出土量であった。遺物はその大半が瓦質鍋、片口鉢の破片資料であった。第77号土塼からは青磁双魚文鉢の底部片が検出された。

第199図は主な遺構の遺物組成をグラフ化したものである（遺物は破片数をカウントしたものである）。この図を参考にさらに遺物の検討を加えたい。この遺跡の遺物は大きく二時期に分けて考えることができる。まず、第1期が13世紀代から14世紀前半の時期である。第2期が15世紀代の遺物を主体とするものである。

第1期と明確に考えられる遺構は第5、11、12号井戸跡である。遺物組成は、在地産の瓦質片口鉢を主体とし、20パーセント前後の搬入品により構成されている。搬入品はその大半が無軸の山茶碗系の鉢であった。搬入品、在地産ともに圧倒的に調理具の占める割合が高い。

遺跡全体の遺物組成を見てみよう。第199図5は中世前半代の遺物組成図である。搬入品は、青磁碗と常滑、渥美などの東海諸窯製品に限定される。その割合は19パーセントほどであった。食膳形態としては土師器皿と青磁碗、貯蔵具は常滑甕、煮炊具は全く認められなく、大半が調理具であった。

第199図1、2は中世後半代と推測される遺物を検出した第1、3号井戸跡の遺物組成図である。この二つの井戸跡からは瓦質鍋、播鉢が主体に検出されている。第199図6は中世後半代と推定される遺跡全体の遺物点数をグラフ化したものである。第1、3号井戸跡の遺物傾向は、その大半が在地産の鍋、播鉢によって構成されている。遺跡全体の組成には、これらの鍋、播鉢に加えて、在地産の火鉢や土師器皿が加わっている。中世前半の遺物組成と際だって異なる点は煮炊具の出現であった。遺物の7割が瓦質鍋によって占められている。また、搬入品が全く認められないことである。中でも、貯蔵具が一点も検出されなかった。瓦質製品の形態などからその時期は15世紀代を主体とする時期であることが指摘できる。

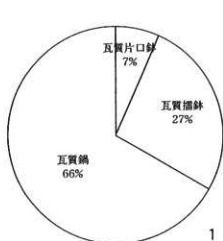
井戸跡のいくつかに関しては、上記のようにある程度の年代を推測することができたが、土塼や竪穴状遺構の多くは遺物がほとんど検出されないことから、明確な時期を提示できない。遺構の形態やわずかな遺物からの推測が許されるならば、その多くが13世紀後半から15世紀と幅を持ち存在するものと推測される。

次に、周辺の中世遺跡などと比較しながら、遺物からみた地神・塔頭遺跡の性格を考えてみたい。

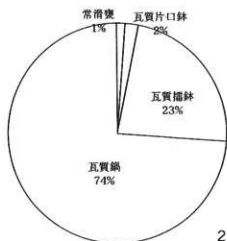
周辺遺跡の中世遺跡には大久保山遺跡、梶原遺跡（阿保氏境の館跡）、将監塚・古井戸遺跡、大師堂遺跡、安保氏館、新倉館跡などがある。

大久保山遺跡は中世全般にわたる遺跡であるが、中世前半代の遺物は注目に値する。常滑・渥美等の搬入製品が主体的に検出され、加えて、瓦器碗などの特殊な製品も認められ、周辺の中世前半の遺跡としては、

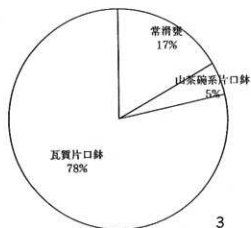
第199図 中世遺物組成図



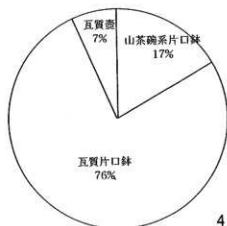
第1号井戸跡



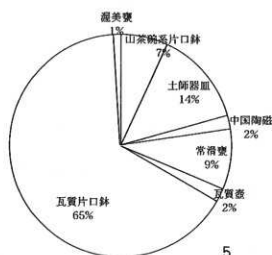
第3号井戸跡



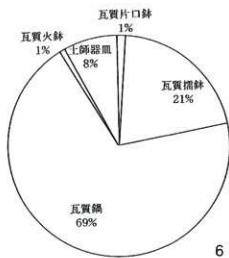
第5号井戸跡



第12号井戸跡



中世前半代の遺物組成



中世後半代の遺物組成

極めて特異な位置づけが必要な遺跡である。

阿保氏境の館跡は13世紀後半から15世紀にかけての遺跡であり、当遺跡とはほぼ同一時期である。中世前半代の遺物は、山茶碗系鉢・常滑甕・青磁碗などが認められ、その他は瓦質片口鉢が多量に検出されていた。当遺跡に比較して、搬入品の個体数が多いことが指摘できる。中世後半代においては、瓦質鍋・瓦質搗鉢などの在地製品とともに、古瀬戸灰釉皿などの搬入品がわずかに確認されている。

将監塚・古井戸遺跡は、15世紀後半から16世紀前半代と推定される遺跡である。出土遺物の大半は瓦質鍋が主体で、搬入品は当遺跡同様ほとんど確認されていない。

北武蔵における中世前半代の出土遺物傾向をみると、その特徴は次のようである。まず第一に土製食膳具の希薄なこと。第二に土製煮炊具が欠落すること。第三に貯蔵具における在地製品の欠落、貯蔵具は主に常滑甕に依存することなどがあげられる。

中世後半代における特徴は、第一に食膳具は中世前半同様極めて希薄なこと。第二に土製煮炊具が新たに出現し、在地産の瓦質鍋が普遍的に使用され始めること。第三に貯蔵具に利用された常滑などの搬入品も希薄となり、土器・陶器製の貯蔵具が極めて希薄となることなどがあげられる。貯蔵具の欠落は北関東さらには東日本全体に見られる傾向である。常滑の生産構造の変化も推測されることであるが、基本的に貯蔵具として桶が多用され始めたものと推測される。中世全般に言えることであるが、貯蔵具に限らず、食膳具の椀・煮炊具の鉄製鍋など見えざる素材について常に考える必要はある。

そして、中世全般にわたり土器陶磁器による階層差を示す要素としては、第一に非日常性の強い土師器、仏具などの比率。第二に貯蔵具、調理具における搬入

品の比率。第三に食膳具における搬入品の占める比率という点に現れる。

片口鉢、内耳鍋、搗鉢などの遺物は、時期を問わず、地神・塔頭遺跡、将監塚・古井戸遺跡、阿保氏境の館跡などいずれの遺跡においても出土量は多い。しかし、同時に搬入品である常滑系片口鉢などを多量に検出させる遺跡は限定される。同一機能の製品が互換品として多用されることは、単一の素材によって構成される遺跡よりは明らかに階層的な高さを認めることができる。13世紀段階では地神・塔頭遺跡よりは将監塚・古井戸遺跡、さらには大久保山遺跡の方がはるかに遺物の豊富さと質の高さを認めることができ、そこに遺跡の階層的差異を認めることができる。15世紀段階でも同様な比較が可能である。地神・塔頭遺跡では、貿易陶磁のみならず国産の古瀬戸、常滑の製品を認めることができないのである。同期の阿保境の館跡では僅かではあるが古瀬戸、常滑などが確認できた。将監塚・古井戸遺跡においては、地神・塔頭遺跡同様ほとんど搬入品を認めることができなかった。中世前半同様、阿保境の館跡との間に階層差を認めることができ、将監塚・古井戸遺跡との間に、大差ない被支配的階層の村落の様相をそこに見いだせないだろうか。

村落的様相の一方で、第11号井戸跡や土壇などから土師器皿の出土が確認されていることに注意する必要がある。非クロロ土師器、クロロ土師器を問わず、土師器皿は非日常的性を象徴する遺物と考えられる。

地神・塔頭遺跡の土壇の多くは墓域であり、周辺一体が非日常的な墓域として形成されていた時期があったことである。墓域の年代は先に触れたように幅を持っており、村落的要素と墓域とを時期的、空間的にどのように整理するべきかが重要な作業であった。室外、墓域と村落が境無く共存していた可能性もあるかもしれない。今後、検討を加えたい。

3 有穴球状製品について

地神遺跡東端のV-47グリッドから用途不明の石製品が出土している。全体はほぼ球状で、小穴が穿たれているが貫通していない。小穴が穿たれた面と、その反対面がやや平らに加工されている。土製品を含めた類別は、県内に限ってではあるが、13遺跡14例が管見に触れた。

材質は、石製が8例、土製が6例である。名称は、各遺跡で様々に付けられている。不明石(土)製品とされている例が最も多く、その他は形状から、玉形石製品、球状土製品、有孔球状土製品等となっている。本書では、「穴」に底のあるあな、という意があるところから、有穴球状石製品という名称を用いた。出土遺構は、溝跡からの出土が14例中5例で、土壌からが2例、掘立柱建物跡・井戸跡が各1例となっており、他はグリッド・包含層からの出土となっている。なお、以下からは、小穴が穿たれた面を上面と仮定する。

熊谷市光屋敷遺跡では、安山岩製の石製品が溝跡(E区SD1)から出土し、上面から側面にかけて放射状に17条の線が刻まれ、一部にはその間にも極めて細い線が刻まれている。遺跡は中条氏の祖、中条常光の館跡の伝承地である。石製品が出土した溝跡は、

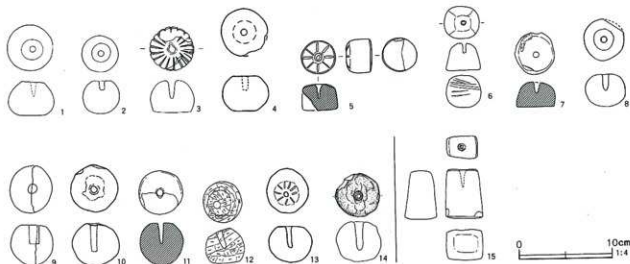
上幅約3m、深さ約0.8m、断面箱築研で、館の堀に比定されている。出土遺物は、15世紀から17世紀の瀬戸・美濃系緑釉皿、灰釉皿、常滑系甕、片口鉢、すり鉢等多量に見られ、板碑には14~15世紀の銘が刻まれている(川口1989)。

坂戸市宮町遺跡では、溝跡(SD5)から出土している。凝灰岩製で、上面に放射状の線刻が見られ、下面はほぼ平らである。13~14世紀の青磁蓮弁椀(龍泉窯)が出土している(大谷1991)。

蓮田市帆立遺跡では、溝跡から凝灰岩製が出土している。上面が平らに仕上げられるが、線刻等は見られない。表面に黒色の付着物が見られる。溝跡は、上幅1.84~3.22m、深さ1~1.7m、断面はV字に近い逆台形で、館あるいは屋敷に伴うものとされている。出土遺物は、かわらけをはじめ、陶磁器類、板碑、石臼等が見られる。溝跡の時期は、16世紀後半と考えられている(鈴木・大塚他1983)。

深谷市ウツギ内遺跡では、溝跡(SD39)から土製のものが出土している。半分ほどに欠けているが、上面が平らである。溝跡は幅1.1m、深さ0.26mで、かわらけや、13世紀後半と15世紀代の常滑の甕口縁

第200図 県内出土の有穴球状製品集成図



部が出土している(劍持1993)。

坂戸市稲荷前遺跡A区では、溝跡(SD8)から土製のものが出土している。球状で面を持たない。溝跡からは常滑甕、内耳鍋、在地系鉢が出土している(富田1992)。

浦和市井沼方遺跡では、土壌(SK172)から土製の球状のものが出土している。土壌からは土器片が50数点出土し、中世以降とされている(樹田1997)。

以上、有穴球状製品と共伴遺物のある遺跡を列挙したが、何れの遺跡でも中世の遺物が出土している。また、他の遺跡でも出土遺構や出土地点の近くには、中世の遺構が検出されており、これらから有穴球状製品は中世の遺物と考えて良いだろう。

では、この有穴球状製品の用途は何であろうか。小穴が穿たれた面を上面と考えると、形態的に類似する

のは古代の権衡資料であろう。特に線刻が見られる光屋敷出土のものは、銅製のものを模倣しているように見える。新屋敷遺跡C区では、権状石製品とし、棒秤の権の可能性を示唆している(金子・大谷1996)。大谷徹氏は宮町遺跡の中で、古代のおもりに関してではあるが、「石製や土製のものは、私的な秤に使われたおもり」である可能性を指摘している。資料15の大宮市大和田陣屋跡(渡辺・山口他1995)のものは、穴(孔)の方向は違うが、全体では古代の石製のものと似通っている。しかし、有穴球状製品をおもりとした場合、いくつかの問題が残る。一つは吊り下げ方である。有穴球状製品の穴は貫通しておらず、この穴にどのような「部品」を取り付けているのか。金属製なのか木製なのか、形状はどのようになるのか。また、古代のおもりを模倣したとする場合、それが中世まで

県内出土有穴球状製品一覧

番号	遺跡	市町村	遺構	材質	長×短×高(m)	重量(g)	特徴	共伴遺物	その他	文献
1	地神	本庄市	グリッド	安山岩	4.9×4.9×3.6	77.55			近くに13~14c前半の竪穴状遺構	本書
2	屈立	深谷市	グリッド	砂岩	3.9×3.9×3.4	65.24			同グリッド内の井戸から泥美帝(12c後半~13c前半)	岩瀬1995
3	光屋敷	熊谷市	溝跡	安山岩	4.7×4.7×3.4	90.28	欠損、上~側面線刻	15~17c瀬戸美濃等多量	溝跡は館跡の可能性高い	川口1989
4	堂山下	毛呂山町	グリッド	凝灰岩	4.9×4.9×3.6	101.78	風化著しい、欠損		同グリッド内に14c代~16c初期の屈立柱建物跡3棟	宮瀬1991
5	宮町	坂戸市	溝跡	凝灰岩	3.7×3.5×2.7	45.16	欠損、上面線刻	青磁蓮弁杯(13~14c)	遺跡内に中世溝跡	大谷1991
6	新屋敷C区	鴻巣市	竪立	凝灰岩	3.7×3.7×3.0	不明	底面に線痕(制作時)	なし	遺跡内に中世遺構	金子・大谷1996
7	薬師堂根	伊奈町	土壌	凝灰岩	4.4×4.3×2.6	64.7	欠損	なし	堀に囲まれた地区に中世土壌多数・竪立	水口1998
8	帆立	逸田市	溝跡	凝灰岩	4.3×4.3×3.5	78	黒色付着物	かわらけ・陶磁器・板碑・石臼他(16c後半)	遺跡内に中世溝跡1条	鈴木・大塚他1983
9	ウツギ内	深谷市	溝跡	土	4.8×4.8×4.2	不明	1/2欠損	常滑甕(13c後半~15c代)・かわらけ	遺跡内に中世井戸跡・土壌	劍持1993
10	稲荷前A区	坂戸市	溝跡	土	5.0×5.0×4.5	100	欠損	常滑甕・内耳鍋・在地系鉢他	遺跡内に中世溝跡・竪立・井戸跡等	富田1992
11	薬師堂根	伊奈町	井戸跡	土	4.6×4.6×4.4	79.47	欠損	なし	胎土は14c代の片口鉢に類似。堀に囲まれた地区に中世土壌多数・竪立	水口1998
12	中里	大宮市	包含層	土	4.2×4.2×3.6	不明	ヘラケズリの上を掘る			下村・宮崎1988
13	上大久保新田	浦和市	包含層	土	4.6×4.5×4.8	不明	上面にヘラの刻目		遺跡内から13c後半~16c前半の遺物出土	樹田・山田1987
14	井沼方	浦和市	土壌	土	4.8×4.6×4.2	不明	欠損	中世以降土器片50数点	遺跡内に中世溝跡・土壌	樹田1997
15	大和田陣屋跡	大宮市	溝跡	凝灰岩	5.2×3.9×3.4	111	長方形	なし	大和田館跡関連	渡辺・山口他1995

残るのであろうか。残念ながらこれらに答えられる資料を持ち合わせておらず、今後の課題となってしまふ。現時点では、有穴球状製品をおもりとすることは、可

能性の一つに留めておきたい。今後、分類等を含めた詳細な検討の必要性を感じると共に、穴がどのように使われたかが判明するような資料の出土を期待したい。

4 地神・塔頭遺跡の中世墓

地神・塔頭遺跡では多数の中世土壌墓が検出された。以下、これらを簡単にまとめてみたい。

土壌墓は、地神遺跡と塔頭遺跡では検出の状況が異なっている。地神遺跡では、調査区東半にやや散漫に分布し、分布範囲の中央近くに竪穴状遺構が検出されている。塔頭遺跡では、調査区の中央に集中しており、区画溝と考えられる溝跡が検出されている。土壌墓の6割以上は、区画溝内側に密集した状態で検出されている。区画溝内には井戸跡が、溝の西側には竪穴状遺構が検出されている。井戸跡からは13~15世紀の遺物が多量に出土している。

塔頭遺跡の西約300mにある今井山長興寺は、貞応2年(1223)(註1)、今井太郎兵衛行助の父庄三郎行家の開基とされている。延元2年(1337)、蘆山の合戦の兵火によって諸堂が消失した後、寛正元年(1460)本堂を落成した。その後、寛政4年(1792)再び火災のため堂宇を失い、寛政10年(1798)再興されている。延元2年の兵火の際、仏像は持ち出されたが、鐘樓の鐘や仏具を井戸に沈めたという伝説があり、その後塚を築き、「鐘塚」と呼んでいたようであ

る。「鐘塚」のあった井戸は、現在上越新幹線下となってしまったということである。念のため地神・塔頭遺跡の井戸跡でも可能な限りの掘削を行ったが、鐘は出土しなかった。

既述したが、塔頭遺跡の塔頭「とうとう」は「たっちゅう」とも読めるため、寺院と関わりのある地名と考えられる。塔頭遺跡では寺院に関係する建物跡等は検出されなかったが、調査区外に存在する可能性も残されている。また、塔頭遺跡の地は、元は長興寺の寺地であった。これらのことから塔頭遺跡で検出された土壌墓は、長興寺と関わりを持つものと考えられる。

地神遺跡で検出された土壌墓は、長興寺との直接的な関わりを根拠を持たないが、同寺が以前はかなり広い寺域を所有していたと伝えられていることから、塔頭遺跡同様、長興寺に関係するのではないかと考える。長興寺住職藤塚英宋禪師には様々な御教示をいただいた。衷心より感謝申し上げます。

(註1) 長興寺縁起では承久5年であるが、承久は3年までのため、それにあう貞応2年とした。

第201図 地神・塔頭遺跡と長興寺位置図



引用・参考文献

- 麻生敏隆 1997「倒木・立木について」『白木遺跡群—古墳時代編—』群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第219集
- 石井克己 1984「群馬県黒井峯遺跡」『日本考古学年報38』日本考古学協会
- 石井克己・梅沢重昭 1994「黒井峯遺跡—日本のポンペイ（日本の古代遺跡を掘る4）読売新聞社
- 石野博信 1991「総論」『古墳時代の研究3 生活と祭祀』雄山閣
- 井上高明 1986「将監塚・古井戸」古墳・歴史時代編I 群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第64集
- 岩瀬 謙 1995「前・后立」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第151集
- 大滝雅嗣・須藤敦子他 1986「宮前川遺跡」群馬県埋蔵文化財調査センター埋蔵文化財調査報告書 第18集
- 大谷 徹 1991「宮町遺跡1」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第96集
- 大塚昌彦他 1988「中筋遺跡第2次発掘調査概要報告書」済川市発掘調査報告書 第18集
- 大塚昌彦 1993「中筋遺跡」『古墳時代の祭祀—祭祀関係の遺跡と遺物—』東日本埋蔵文化財研究会
- 金子直行・大谷 徹 1996「新屋敷遺跡C区」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第175集
- 川口 潤 1989「光屋敷遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第82集
- 齋持和夫 1992「ウツギ内・砂田・柳町」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第126集
- 小泉装彦 1982「秤」ものと人間の文化史48 法政大学出版局
- 子持村 1987「子持村誌」上巻 子持村誌編纂室
- 埼玉県教育委員会 1968「埼玉の館城跡」
- 埼玉県教育委員会 1988「埼玉の中世城館跡」
- 篠崎 潔・平田重之 1989「梶原・榑下遺跡1（阿保境の館跡）」中世編 梶原・榑下遺跡調査会報告書 第1集
- 篠崎 潔 1995「安保氏館跡」神川町遺跡調査会発掘調査報告 第5集
- 下村克彦・宮崎由利江 1988「中里遺跡・篠山遺跡」大宮市遺跡調査会報告別冊4
- 鈴木徳雄・西口正純 1981「深町・城の内遺跡」深町遺跡調査会
- 鈴木敏昭・大塚季司他 1983「ささら・帆立・馬込新屋敷・馬込大原」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第24集
- 富田和夫 1992「稲荷前遺跡（A区）」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第120集
- 平岩俊哉 1996「古墳時代集落祭祀の一考察」『研究紀要』第12号 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 平岩俊哉 1996「古墳時代集落内祭祀小考—「集積型」を中心として」『博古研究第12号』博古研究会
- 福田 聖 1997「関東地方出土の古代権衡資料」『研究紀要』第13号 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 本庄市 1986「本庄市史」通史編I
- 本庄市 1988「本庄市史」通史編II
- 梶田博之・山田尚友他 1987「上大久保新田遺跡発掘調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書 第86集
- 梶田博之 1997「井沼方遺跡発掘調査報告書（第16次）」浦和市遺跡調査会報告書 第231集
- 水口由紀子 1998「薬師堂根遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第200集
- 宮瀧文二 1991「堂山下遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第99集
- 山川守男 1995「城北遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第150集
- 渡辺丈夫・山口康行他 1995「大和田陣屋跡・今羽丸山遺跡」大宮市遺跡調査会報告 52集

付 編

地神遺跡出土土器胎土分析

（独）第四紀地質研究所 井上 巖

1 実験条件

1-1 試料

分析に供した試料は、第1表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は、洗浄・乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は、土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄・乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定は、X線回折試験によった。測定には、日本電子製JD X-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target	: Cu
Filter	: Ni
Voltage	: 40kV
Current	: 30mA
ステップ角度	: 0.02°
計数時間	: 0.5秒

1-3 化学分析

元素分析は、日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、次の実験条件で行った。

加速電圧	: 15kV
分析法	: スプリント法

分析倍率 : 200倍

分析有効時間: 100秒

分析指定元素: 10元素

2 X線回折試験結果の取扱

実験結果は、第1表胎土性状表に示す通りである。第1表右側には、X線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織を示した。左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示した。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字は、チャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

電子顕微鏡によって得られたガラス量と、X線回折試験で得られたムライト (Mullite)・クリストバライト (Cristobalite) 等の組成上の割合とによって焼成ランクを決定した。

2-1 組成分類

Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

第1図に示すように、三角ダイヤグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分を含まない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムは、モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb) のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%) で表示する。

モンモリロナイトは、Mont/Mont+Mica+Hb *100でパーセントとして求めた。同様に Mica, Hb も計算し、三角ダイヤグラムに記載した。

三角ダイヤグラム内の1~4は、Mont, Mica,

Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は、第1図に示す通りである。

Mont—Ch, Mica—Cb 菱形ダイヤグラム

第2図に示すように菱形ダイヤグラムを1～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンロロナイト (Mont)・雲母類 (Mica)・角閃石 (Hb)・緑泥石 (Ch) の内、

- a) 3成分以上含まれない
- b) Mont, Chの2成分が含まれない
- c) Mica, Hbの2成分が含まれない

の3例がある。

菱形ダイヤグラムは Mont—Ch, Mica—Hb の組合せを表示するものである。

Mont—Ch, Mica—Hb のそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を、各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、 $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Ch}) * 100$ と計算し、Mica, Hb, Ch も各々同様に計算し記載した。

菱形ダイヤグラム内にある1～7は、Mont, Mica, Hb, Ch の4成分を含み、各辺は Mont, Mica, Hb, Ch のうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は、第2図に示す通りである。

2-2 焼成ランク

焼成ランクの区分は、X線回折試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行った。

ムライト (Mullite) は磁器・陶器など高温で焼かれた状態で初めて生成する鉱物である。クリストバライト (Cristobalite) はムライトより低い温度、ガラスはクリストバライトより更に低い温度で生成する。

これらの事実に基づき、X線回折試験結果と電子顕

微鏡観察結果から、土器胎土の焼成ランクをI～Vの5段階に区分した。

焼成ランクI：ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発泡している。

焼成ランクII：ムライトとクリストバライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。

焼成ランクIII：ガラスのなかにクリストバライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。

焼成ランクIV：ガラスのみが生成し、原土 (素地土) の組織をかなり残している。ガラスは微小な葉状を呈する。

焼成ランクV：原土に近い組織を有し、ガラスは殆どできていない。

以上のI～Vの分類は原則であるが、胎土の材質、すなわち、粘土の良悪によってガラスの生成量は異なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト・クリストバライトなどの組合せといくぶん異なる焼成ランクが出現することになるが、この点については第1表の右端の備考に理由を記した。

2-3 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法 (10元素全体で100%になる) で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいて SiO₂-Al₂O₃ 網、Fe₂O₃-MgO 網、K₂O-CaO 網の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

3 X線回折試験結果 (土師器)

3-1 タイプ分類

第1表胎土性状表には、既分析の兎玉工業団地、今井川越田 (94・95) 遺跡と共に地神遺跡出土土師器

を記載した。タイプ分類はこれらの各遺跡の土器で新たにを行い、第5表土師器タイプ分類一覧表を作成した。

第5表に示すように、土器胎土はA-Qの16タイプに分類した。

Aタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分を含む。

Bタイプ：Mont, Mica, Hbの3成分を含み、Ch 1成分に欠ける。

Cタイプ：Mont, Mica, Hbの3成分を含み、Ch 1成分に欠ける。組成的にはBタイプと類似するが、検出強度が異なるためにタイプが異なる。

Dタイプ：Hb, Chの2成分を含み、Mont, Micaの2成分に欠ける。

Eタイプ：Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。

Fタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Gタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

Hタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。組成的にはFタイプと同じであるが、検出強度が異なる為にタイプが異なる。

Iタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。組成的にはGタイプと同じであるが、検出強度が異なる為にタイプが異なる。

Jタイプ：Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分に欠ける。

Kタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。

Lタイプ：Mont, Micaの2成分を含み、Hb, Chの2成分に欠ける。

Mタイプ：Mont 1成分を含み、Mica, Hb, Chの成分に欠ける。

Nタイプ：Mont, Hbの2成分を含み、Mica,

Chの2成分に欠ける。

Oタイプ：Mont, Hb, Chの3成分を含み、Mica 1成分に欠ける。

Pタイプ：Mont, Mica, Hb, ChのMica 4成分に欠ける。

主に、 $n\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot m\text{SiO}_2 \cdot l\text{H}_2\text{O}$ (アルミナゲル) で構成される。

最も多いタイプはGタイプで16個、ついでEタイプの14個、Hタイプの13個、Iタイプの10個、Pタイプの6個となり、その他は1~4個と少ない。全体に土器に対してタイプが多く、多種にわたる傾向が認められる。地神遺跡の土師器は、13個のうちAタイプが2個、B・Cタイプが各1個、Fタイプが3個、Gタイプが2個、Hタイプが3個、Iタイプが1個と多種にわたり、他の遺跡の分析結果と類似する。

3-2 石英 (Qt)-斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は、粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは、個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は、固有の石英と斜長石比を有している。この比は、後背地の地質条件によって各々異なってくるものである。言い換えれば、各地の砂は、各々固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第5図 Qt-Pl 図に示すように I-III の3グループに分類した。

Iグループ：Qt (石英) の強度が800~2300の範囲にあって、Pl (斜長石) の強度が200~1500の範囲にあり、広い領域に分散する。この領域には今井川越田遺跡の土師器が集中し、地神遺跡の土師器と共存する。

IIグループ：Iグループの中の一部を構成するもので、特に地神遺跡の土師器が集中する

領域である。

IIIグループ：Qt (石英) の強度が1500~3000、
Pl (斜長石) の強度が300~700の
範囲にあり、一部はIグループと重複
する。児玉工業団地遺跡の土師器が集
中する。

地神遺跡の土師器は、今井川越田遺跡の土師器との
関連性が高く、一部は児玉工業団地遺跡の土師器と関
連する。

4 化学分析結果

第3表土師器化学分析表に示すように、既分析の児
玉工業団地、今井川越田 (94・95) 遺跡と共に地神
遺跡出土土師器を記載した。

分析結果に基づいて第6図SiO₂-Al₂O₃図、
第7図Fe₂O₃-MgO図、第8図K₂O-CaO
図を作成した。

4-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について

第6図SiO₂-Al₂O₃図に示すようにSiO₂
の値の低い領域には、今井川越田遺跡の土師器が集
中し、SiO₂の値の高い領域には児玉工業団地遺跡
の土師器が集中し、両者の重複領域には地神遺跡の土
師器が集中する。

4-2 Fe₂O₃-MgOの相関について

第7図Fe₂O₃-MgO図に示すように、MgO
の値が高い領域のIグループには、今井川越田遺跡の
土師器が集中し、地神遺跡の土師器が共存する。

MgOの値が低い領域のIIグループには、児玉工業
団地遺跡の土師器が集中し、地神遺跡の土師器が混在
する。

IIIグループには今井川越田遺跡の土師器が集中し、
児玉工業団地遺跡の土師器が共存する。

4-3 K₂O-CaOの相関について

第8図K₂O-CaO図に示すように、CaOの値

が高い領域には、今井川越田遺跡の土師器が集中し、
地神遺跡の土師器が共存する。CaOの値が低い領域
には、児玉工業団地遺跡の土師器が集中し、一部に今
井川越田遺跡の土師器が混在する。

以上の結果から明らかなように、地神遺跡の土師器
は、今井川越田遺跡の土師器と組成がよく似ており、
関連性は高い。児玉工業団地遺跡の土師器は、成分的
には今井川越田遺跡系の土師器と近いように見受けら
れるが、いくぶん組成が異なる。地神遺跡の土師器の
うち地神-14・18は児玉工業団地遺跡の土師器と組
成的に類似性が高いが、他の土師器は今井川越田遺跡
系の土師器と推察される。

5 X線回折試験結果 (須恵器)

5-1 タイプ分類

第2表須恵器胎土性状表には、既分析の広木上宿・
児玉工業団地・中堀の各遺跡の須恵器と共に地神遺跡
の須恵器を記載した。タイプ分類はこれら各遺跡の土
器であらたにおこない、第6表須恵器タイプ分類一覽
表を作成した。

第6表に示すように土器胎土はA-Eの5タイプに
分類された。

Aタイプ：Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Ch
の3成分に欠ける。

Bタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont,
Chの2成分に欠ける。

Cタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont,
Chの2成分に欠ける。組成的にはBタ
イプと同じであるが、検出強度が異なる
為にタイプが異なる。

Dタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Ch
の3成分に欠ける。

Eタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠
ける。高温で焼成されているために鉱物
は分解し、ガラスに変質している。その

ため本来の鉱物組成を示すものではない。

最も多いタイプはEタイプで、Aタイプ3個、Bタイプ4個、Cタイプ3個、Dタイプ2個となる。

地神遺跡の須恵器はEタイプ4個、Aタイプ2個と2タイプのみである。

5-2 石英(Qt)-斜長石(Pl)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は、粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。

土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは、個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は、固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものである。言い換えれば、各地の砂は各々固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第9図Qt-Pl図に示すように、I~IIの2グループに分類した。全体に分散傾向にある。

Iグループ：地神と広木上宿の両遺跡の須恵器が集中する。

IIグループ：児玉工業団地遺跡の須恵器が集中する。

このように、地神と広木上宿の両遺跡の須恵器は関連するが、児玉工業団地遺跡の須恵器はいくぶん異なる。

6 化学分析結果(須恵器)

第4表須恵器化学分析表に示すように、既分析の広木上宿、児玉工業団地、中塚の各遺跡の須恵器とともに地神遺跡の須恵器を記載した。

分析結果に基づいて、第10図SiO₂-Al₂O₃図、第11図Fe₂O₃-MgO図、第12図K₂O-CaO図を作成した。

須恵器の産地同定として猿投窯跡群、末野窯跡群、鳩山窯跡群、秋間窯跡群の須恵器と比較検討した。

6-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について

第10図SiO₂-Al₂O₃図に示すように、全体に分散傾向にあり、多種にわたることは明白である。

末野窯跡群の領域には児玉工業団地遺跡の須恵器が集中し、地神-2・5が混在する。鳩山窯跡群の領域には児玉工業団地遺跡の須恵器が集中し、地神-3・4が混在する。猿投窯跡群の領域には地神-1・7が混在する。秋間窯跡群の領域はあまりはっきりしない。

6-2 Fe₂O₃-MgOの相関について

第11図Fe₂O₃-MgO図に示すように、猿投窯跡群の領域には地神-1・7、末野窯跡群の領域には児玉工業団地遺跡の須恵器が集中し、地神-2・3・4の須恵器が共存する。鳩山窯跡群の領域には児玉工業団地遺跡の須恵器が混在する。これらの領域外には児玉工業団地遺跡と広木上宿遺跡の須恵器で構成するグループが形成されている。

6-3 K₂O-CaOの相関について

第12図K₂O-CaO図に示すように、末野窯跡群の領域には児玉工業団地遺跡の須恵器が共存する。鳩山窯跡群の領域には地神-3・4が混在する。猿投窯跡群の領域には地神-1・7が混在し、これらの領域外に広木上宿遺跡と児玉工業団地遺跡の須恵器が分散して分布する。

以上の結果から判断して地神-1・7は猿投窯跡群、地神-3・4は鳩山窯跡群、地神-2は末野窯跡群の須恵器の成分に近い。地神-5は末野窯跡群であるが、地神-6は前記の窯跡群のいずれにも該当しない。広木上宿遺跡の須恵器は別の産地を検討しなくてはならないであろう。

7 まとめ

1) 各遺跡から出土した土師器の胎土はA~Pの16タイプに分類され、多種にわたる。地神遺跡の土師器も同様に多種にわたり、全体の傾向と類似する。

2) X線回折試験に基づくQ t - P I 相関では、地神遺跡の土師器は今井川越田遺跡の土師器と同じグループに属し、関連性が認められる。兎玉工業団地遺跡の土師器は異なるグループを形成するが、今井川越田遺跡の領域と一部で重複し、類似性が認められる。

3) 土師器の化学分析結果でも、今井川越田遺跡の土師器と同じグループに共存し類似性が高いが、兎玉工業団地遺跡の土師器とは成分的に異なり、関連性は薄い。地神-14・18は、兎玉工業団地遺跡の土師器と成分的に類似するが、その他は今井川越田遺跡の土師器との関連性が深い。

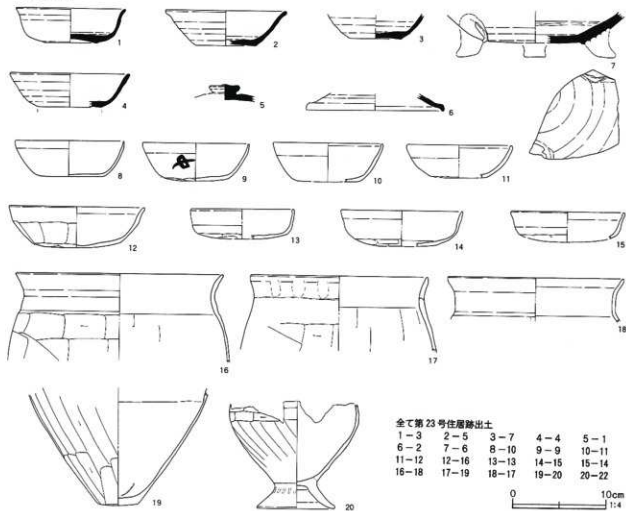
4) 須恵器のタイプ分類は高温で焼成されているため

本来の鉱物組成とは異なる。

5) 須恵器のQ t - P I 相関では、広木上宿遺跡の須恵器と兎玉工業団地遺跡の須恵器は、異なるグループに属する。

6) 須恵器の化学分析結果では、末野窯跡群・鳩山窯跡群・猿投窯跡群・秋間窯跡群の須恵器と比較検討した結果、秋間窯跡群系の須恵器は認められない。地神-1・7は猿投窯跡群、地神-3・4は鳩山窯跡群、地神-2は末野窯跡群、地神-5は末野窯跡群群であるがはっきりしない。地神-6は広木上宿遺跡系であり、他に産地を求めなければならないようである。

分析資料



全て第 23 号住居跡出土

1-3	2-5	3-7	4-4	5-1
6-2	7-6	8-10	9-9	10-11
11-12	12-16	13-13	14-15	15-14
16-18	17-19	18-17	19-20	20-22

0 10cm
1:4

第I表 胎土性状表(土師器)(I)

試料 No	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類			粘土鉱物および造岩鉱物														備考	
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ck-Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス		
地神-8	A		1	1	143	105	111	159		970	542							72		土師器：環	9 C
地神-9	F		6	10		100	131	157		995	421							68		土師器：環	9 C
地神-10	F		6	10		98	132	151		1246	483	92								土師器：環	9 C
地神-11	G		6	20		78	138			1337	605							93		土師器：環	9 C
地神-12	H		7	9		111	84	163		1983	490									土師器：環	9 C
地神-13	A		1	1	149	223	125	143		1523	468									土師器：環	9 C
地神-14	I		7	20		111	89			1269	626	96								土師器：環	9 C
地神-15	F		6	10		102	105	135		1073	819	99								土師器：環	9 C
地神-16	H		7	9		106	96	162		1456	431									土師器：甕	9 C
地神-17	H		7	9		126	104	130		1728	432							69		土師器：甕	9 C
地神-18	B		1	15	122	131	158			1471	738	116								土師器：甕	9 C
地神-19	F		6	20		86	106			1840	526									土師器：甕	9 C
地神-20	C		1	16	116	112	91			1820	462									土師器：台付甕	9 C
兎玉-1	P		14	20						1693	235	90	49					112		土師器：環	7 C M
兎玉-8	E		5	20			169			1444	494							96		土師器：甕	7 C M
兎玉-2	G		6	20		129	143			1522	403	97						97		土師器：環	7 C L
兎玉-3	H		7	9		207	137	183		1634	596									土師器：環	7 C L
兎玉-5	H		7	9		145	117	146		1465	938	102						87		土師器：皿	7 C L
兎玉-7	G		6	20		84	153			2883	1218							107		土師器：甕	7 C L
兎玉-10	I		7	20		113	108			2078	472	81								土師器：盤	7 C L
兎玉-11	I		7	20		116	98			2450	455									土師器：盤	7 C L
兎玉-12	I		7	20		239	90			2123	543	90								土師器：蓋	7 C L
兎玉-13	J		8	8		194		232		2636	399									土師器：蓋	7 C L
兎玉-4	I		7	20		95	70			2160	679	185								土師器：環	8 C E
兎玉-9	F		6	10		196	209	239		1566	701	108						87		土師器：蓋	8 C E
兎玉-26	P		14	20						2827	405	173								土師器：環	8 C E
兎玉-27	E		5	20			108			2409	575	188						82		土師器：環	8 C E
兎玉-30	P		14	20						2157	526	214								土師器：皿	8 C E
兎玉-31	H		7	9		120	82	174		2405	424	146						82		土師器：皿	8 C M
兎玉-36	H		7	9		191	146	194		2222	491							68		土師器：環	8 C M

第1表 胎土性状表(土師器)(2)

試料 No.	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類			粘土鉱物および造岩鉱物														備考	
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ca-M-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス		
児玉-25	H		7	9		169	127	180		1907	514							80		土師器：環	8 C L
児玉-28	H		7	9		402	221	209		1619	366							74		土師器：環	8 C L
児玉-29	H		7	9		321	172	187		1742	334							89		土師器：環	8 ~ 9 C
児玉-33	A		1	1	183	208	150	193		2081	471	85						88		土師器：高台皿	8 ~ 9 C E
児玉-34	I		7	20		152	129			1696	427	141		166						土師器：高台皿	8 ~ 9 C E
児玉-37	F		6	10		77	101	89		1776	789	94					123			土師器：環	8 ~ 9 C E
児玉-38	H		7	9		190	158	236		1984	442	78						96		土師器：環	8 ~ 9 C E
児玉-39	H		7	9		185	146	209		1644	453							66		土師器：皿	8 ~ 9 C E
児玉-40	H		7	9		174	116	242		1621	1221	104						68		土師器：環	8 ~ 9 C E
児玉-41	G		6	20		153	185			2154	276							91		土師器：環	8 ~ 9 C E
児玉-24	I		7	20		155	126			2060	590	168						83		土師器：環	9 C M
今井川越田94-1	L		10	17	218	130				1016	549									土師器：環	6世紀後半
今井川越田94-2	G		6	20		117	143			2123	295									土師器：環	6世紀後半
今井川越田94-3	P		14	20						1549	153									土師器：環	6世紀後半
今井川越田94-4	N		12	14	241		118			977	226	119								土師器：環	6世紀後半
今井川越田94-5	B		1	15	202	189	190			2204	378									土師器：環	6世紀後半
今井川越田94-6	K		8	20		125				1020	481	176								土師器：環	6世紀後半
今井川越田94-7	A		1	1	259	131	102	263		1991	309			203						土師器：環	6世紀後半
今井川越田94-8	F		6	10		129	180	243		1392	1072				63					土師器：環	6世紀後半-暗文
今井川越田94-9	M		11	20	219					2334	329	116								土師器：環	6世紀後半-北窓型環
今井川越田95-1	I		7	20		195	182			2471	598	96								土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-2	E		5	20			173			1054	590	112								土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-3	E		5	20			98			1328	218									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-4	E		5	20			87			1317	269									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-5	E		5	20			100			1843	302									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-6	G		6	20		117	171			1597	636									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-7	G		6	20		73	86			1963	326									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-8	F		6	10		117	144	161	61	990	477									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-9	I		7	20		136	134			1632	398	166								土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-10	D		5	11			164	193		786	550									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-11	D		5	11			91	148		672	854									土師器：環	古墳時代後期

第1表 胎土性状表(土師器)(3)

試料 No	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物														備考			
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ca-Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au		ガラス		
今井川越田95-12	G		6	20		66	122			1454	198									土師器：環	古墳時代後期	
今井川越田95-13	G		6	20			90	123			1752	800	90								土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-14	E		5	20				85			1008	264	89								土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-15	A		1	1	310	154	164	282		1651	336										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-16	F		6	10		144	156	268		1201	237										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-17	K		8	20		100				2810	515										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-18	F		6	10		103	135	186		2335	1427										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-19	A		1	1	181	123	125	182	66	1472	493										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-20	E		5	20			101			799	365	108									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-21	G		6	20		87	209			943	296										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-22	F		6	10		133	147	230	75	739	749	139									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-23	I		7	20		70	64			2132	551	142									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-24	E		5	20			270			2141	798										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-25	O		13	12	242		249	254	63	1062	314										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-26	E		5	20			107			1957	371										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-27	G		6	20		87	143			1464	259										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-28	D		5	11			113	195		2178	721										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-29	E		5	20			107			713	1276										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-30	P		14	20						1566	688	156									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-31	P		14	20						1341	142										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-32	D		5	11			198	227	64	846	520										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-33	G		6	20		105	184			1138	343	107									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-34	E		5	20			61			1602	188										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-35	E		5	20			142			2402	944										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-36	G		6	20		103	113			1782	272										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-37	G		6	20		129	171			1384	1043										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-38	F		6	10		266	347	174		1239	671	115									土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-39	F		6	10		138	179	247	106	1504	674										土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-40	E		5	20			117			1226	693										土師器：甕	古墳時代後期
今井川越田95-41	G		6	20		122	129			1366	539										土師器：甕	古墳時代後期

Mullite: ムライト、K-fels: カリ長石、Halloy: ハロイサイト、Kaol: カオリナイト、Pyrite: 黄鉄鉱、Au: 普通輝石、Py: 紫麻輝石

第2表 胎土性状表(須恵器)(i)

試料 No.	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物															備考	
			Mo-Mi-Hb	Mo-Cs-Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス		
地神-1	A		5	20			40		1900	57	230	122					100		須恵器：環	9 C	
地神-2	E		14	20					2358	246	223						53		須恵器：環	9 C	
地神-3	E		14	20					1335	164	978	131					106		須恵器：環	9 C	
地神-4	E		14	20					1437	201	1099	69					66		須恵器：環	9 C	
地神-5	E		14	20					2653	403	112	54					54		須恵器：蓋	9 C	
地神-6	A		5	20			48		1767	545	80						54		須恵器：蓋	9 C	
地神-7	E		14	20					1319	77	405	159					107		須恵器：三足壺	9 C	
広木上宿-15	E		14	20					1502	102	268	76							須恵器環	8~9 C	
広木上宿-16	C		7	20		70	67		2324	488	89								須恵器環	8~9 C	
広木上宿-17	E		14	20					1985	142									須恵器環	8~9 C	
広木上宿-18	E		14	20					1795	157	248								須恵器環	8~9 C	
広木上宿-19	E		14	20					1443	105	214	55							須恵器環	8~9 C	
広木上宿-20	A		5	20				85	1758	378									須恵器環	8~9 C	
広木上宿-21	D		8	20		72			3116	476	83								須恵器環	8~9 C	
広木上宿-22	E		14	20					2806	143	271								須恵器環	8~9 C	
広木上宿-23	C		7	20		204	101		2144	669	105								須恵器環	8~9 C	
広木上宿-24	E		14	20					1343	137	200	57							須恵器環	8~9 C	
広木上宿-25	E		14	20					1629	186	159								須恵器環	8~9 C	
児玉-15	E		14	20					1372	128	195	114					256		須恵器：環	7 C L	
児玉-16	E		14	20					2179	80	757	130					120		須恵器：環	7 C L	
児玉-17	E		14	20					1368	130	980	190					299		須恵器：蓋	7 C L	
児玉-18	E		14	20					1425	202	791	96					163		須恵器：蓋	7 C L	
児玉-19	E		14	20					1305	151	1277	132					190		須恵器：蓋	7 C L	
児玉-20	E		14	20					1463	362	557	44							須恵器：蓋	7 C L	
児玉-23	E		14	20					3576	294	183								須恵器：瓶	7 C L	
児玉-14	E		14	20					1994	88	386	154					125		須恵器：環	8 C E	
児玉-21	E		14	20					2966	96	283	99					96		須恵器：蓋	8 C E	
児玉-22	E		14	20					3591	149	214	71							須恵器：鉢	8 C E	
児玉-43	E		14	20					2501	477						60			須恵器：環	8 C E	

第2表 胎土性状表(須恵器)(2)

試料 No	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物														備考			
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ca-Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au			ガラス	
児玉-46	E		14	20						1653	215	723	81						63		須恵器: 環	8 C E
児玉-54	E		14	20						2179	162	221	95						97		須恵器: 蓋	8 C E
児玉-56	E		14	20						3701	76	809	107						88		須恵器: 蓋	8 C E
児玉-45	E		14	20						2197	245	647	102						87		須恵器: 環	8 C M
児玉-57	E		14	20						5085	57	354	127						98		須恵器: 環	8 C M
児玉-35	B		6	20			131	197		2197	2028	207							74		須恵器: 高台皿	8 C L
児玉-47	E		14	20						2382	148	630	93						85		須恵器: 環	8 C L
児玉-48	E		14	20						2557	157	797	97						146		須恵器: 環	8 C L
児玉-53	E		14	20						3089	169	602	52								須恵器: 蓋	8 C L
児玉-50	E		14	20						3598	377	184	64						63		須恵器: 環	8~9 C E
児玉-51	E		14	20						2577	262	183				66					須恵器: 環	8~9 C E
児玉-52	E		14	20						2691	253	975	89						79		須恵器: 環	8~9 C E
児玉-32	B		6	20			154	210		2261	730	100							79		須恵器: 高台皿	9 C M
児玉-44	C		7	20			163	131		2389	365	81									須恵器: 環	9 C L
児玉-49	E		14	20						2429	423				151						須恵器: 環	9 C L
中壩95-16	E		14	20						2143	447	454	49								須恵器: 碗	9~10 C
中壩95-17	B		6	20			85	90		2142	426	141	45								須恵器: 碗	9~10 C
中壩95-18	B		6	20			74	218		1414	663	94									須恵器: 碗	9~10 C
中壩95-19	D		8	20			58			2106	354	174									須恵器: 碗	9~10 C
中壩95-20	E		14	20						2849	132	177	58	130							須恵器: 碗	9~10 C
秋間-1	E		14	20						3152	91	535	169								須恵器: 環	9 C 前半
秋間-2	E		14	20						1696	102	312	101					84			須恵器: 環	9 C 前半
秋間-3	E		14	20						3775	76	934	110	88							須恵器: 環	9 C 前半
秋間-4	E		14	20						5116	66		68								須恵器: 環	9 C 前半
秋間-5	D		8	20			175			3944	164								154		須恵器: 環	9 C 前半

Mullite: ムライト、K-fels: カリ長石、Halloy: ハロイサイト、Kaol: カオリナイト、Pyrite: 黄鉄鉱、Au: 普通輝石、Py: 紫蘇輝石

第3表 化学分析表(土師器)(1)

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NO	Total	備考
地神-8	1.20	2.55	23.05	59.65	1.14	1.28	0.94	0.12	10.07	0.00	100.00	土師器: 环 9 C
地神-9	1.02	2.15	22.58	57.20	1.16	1.55	1.45	0.76	12.12	0.01	100.00	土師器: 环 9 C
地神-10	1.08	2.34	23.15	57.41	1.71	1.61	0.89	0.44	11.15	0.22	100.00	土師器: 环 9 C
地神-11	1.63	2.26	21.35	58.73	2.19	1.37	1.51	0.40	10.44	0.12	100.00	土師器: 环 9 C
地神-12	1.41	2.72	23.28	57.66	2.16	1.20	1.27	0.94	9.20	0.15	99.99	土師器: 环 9 C
地神-13	1.28	2.88	22.62	56.15	2.55	1.34	1.29	0.85	11.02	0.02	100.00	土師器: 环 9 C
地神-14	0.88	1.69	20.84	62.38	1.99	1.31	1.30	0.45	8.90	0.24	99.98	土師器: 环 9 C
地神-15	0.87	2.62	23.48	58.09	2.06	1.30	1.17	0.64	9.31	0.46	100.00	土師器: 环 9 C
地神-16	0.80	1.73	24.90	57.62	1.86	1.12	1.54	0.73	9.69	0.00	99.99	土師器: 甕 9 C
地神-17	1.46	3.10	21.49	60.57	2.41	0.89	1.14	0.56	8.36	0.00	100.00	土師器: 甕 9 C
地神-18	0.71	1.57	21.66	63.72	1.93	1.02	1.20	0.52	7.56	0.11	100.00	土師器: 甕 9 C
地神-19	0.61	2.42	20.94	50.84	4.94	1.14	1.67	0.83	16.28	0.33	100.00	土師器: 甕 9 C
地神-20	1.37	2.64	21.90	55.76	2.96	1.34	1.85	0.90	11.27	0.00	99.99	土師器: 台付甕 9 C
児玉-1	1.15	3.31	21.83	56.65	3.06	0.83	1.22	0.64	11.31	0.00	100.00	土師器: 环 7 CM
児玉-8	1.60	2.68	21.23	59.93	2.31	1.67	1.18	0.48	8.91	0.00	99.99	土師器: 甕 7 CM
児玉-2	0.83	2.41	25.38	56.02	1.95	0.80	1.36	0.36	10.88	0.00	99.99	土師器: 环 7 CL
児玉-3	1.07	2.45	23.42	54.45	2.83	1.69	1.52	0.60	11.85	0.12	100.00	土師器: 环 7 CL
児玉-5	0.96	1.84	22.69	61.80	1.85	0.90	1.00	0.59	8.36	0.00	99.99	土師器: 皿 7 CL
児玉-7	2.33	2.73	21.85	55.16	2.37	0.91	1.21	0.50	12.86	0.08	100.00	土師器: 甕 7 CL
児玉-10	1.13	0.88	24.76	60.12	2.53	0.50	0.72	0.67	8.69	0.00	100.00	土師器: 盤 7 CL
児玉-11	1.53	0.98	24.70	61.31	2.36	0.51	0.82	0.48	7.15	0.17	100.01	土師器: 甕 7 CL
児玉-12	0.46	1.23	27.53	61.40	1.92	0.51	1.10	0.05	5.79	0.00	99.99	土師器: 蓋 7 CL
児玉-13	0.43	1.26	26.67	60.78	1.96	0.50	1.07	0.46	6.87	0.00	100.00	土師器: 蓋 7 CL
児玉-4	0.93	1.83	22.15	62.70	0.95	1.02	1.12	0.53	8.60	0.16	99.99	土師器: 环 8 CE
児玉-9	1.14	2.24	23.27	51.86	2.38	1.03	1.62	0.73	15.07	0.66	100.00	土師器: 蓋 8 CE
児玉-26	1.02	0.94	23.32	61.66	1.24	0.61	1.36	0.34	9.49	0.00	99.98	土師器: 环 8 CE
児玉-27	1.15	1.03	22.55	58.92	1.50	0.53	1.09	0.52	12.71	0.00	100.00	土師器: 环 8 CE
児玉-30	0.80	0.98	23.11	60.25	1.12	0.53	1.19	0.69	11.34	0.00	100.01	土師器: 皿 8 CE
児玉-31	0.91	0.76	22.08	63.75	1.40	0.42	1.35	0.48	8.70	0.14	99.99	土師器: 皿 8 CM
児玉-36	1.38	2.74	23.70	58.39	2.49	1.13	1.42	0.48	8.28	0.00	100.01	土師器: 环 8 CM
児玉-25	1.34	1.16	26.01	57.66	1.61	1.60	1.40	0.24	8.92	0.07	100.01	土師器: 环 8 CL
児玉-28	1.43	2.98	24.67	55.67	2.89	1.12	1.16	0.87	9.23	0.00	100.02	土師器: 环 8 CL
児玉-29	0.78	3.00	24.54	55.58	3.12	0.92	1.17	0.41	10.48	0.00	100.00	土師器: 环 8 ~ 9 C
児玉-33	0.72	2.08	20.30	62.00	2.09	0.57	1.61	0.63	10.00	0.00	100.00	土師器: 高台皿 8 ~ 9 CE
児玉-34	0.95	2.23	25.98	55.36	1.78	0.83	1.36	0.27	11.25	0.00	100.01	土師器: 高台皿 8 ~ 9 CE
児玉-37	1.26	2.80	23.13	59.61	2.65	0.75	0.94	0.60	8.09	0.14	99.97	土師器: 环 8 ~ 9 CE
児玉-38	0.89	3.69	22.47	55.03	2.43	1.60	1.34	0.93	11.32	0.28	99.98	土師器: 环 8 ~ 9 CE
児玉-39	0.82	3.31	24.24	54.37	2.54	0.78	1.39	0.72	11.61	0.21	99.99	土師器: 皿 8 ~ 9 CE
児玉-40	1.10	2.92	21.59	57.68	2.63	0.75	1.19	1.00	11.14	0.00	100.00	土師器: 环 8 ~ 9 CE
児玉-41	1.10	2.99	22.32	54.46	2.84	0.93	1.56	1.01	12.53	0.25	99.99	土師器: 环 8 ~ 9 CE
児玉-24	0.69	1.26	25.29	60.26	1.89	0.54	1.27	0.30	8.33	0.17	100.00	土師器: 环 9 CM
今井川越田94-1	0.29	1.34	28.93	53.78	0.89	1.05	1.66	0.15	11.92	0.00	100.01	土師器: 环 6世紀後半
今井川越田94-2	0.82	3.31	25.31	52.56	2.32	0.94	1.79	0.22	12.71	0.00	99.98	土師器: 环 6世紀後半
今井川越田94-3	1.15	3.81	21.38	56.48	3.38	1.00	1.61	0.00	11.02	0.18	100.01	土師器: 环 6世紀後半
今井川越田94-4	0.61	2.18	26.61	53.32	1.18	1.28	1.37	0.00	13.30	0.15	100.00	土師器: 环 6世紀後半
今井川越田94-5	1.08	2.97	23.80	54.53	3.07	1.10	1.77	0.41	11.12	0.15	100.00	土師器: 环 6世紀後半
今井川越田94-6	0.39	1.22	29.54	54.88	1.06	0.86	1.45	0.00	10.48	0.12	100.00	土師器: 环 6世紀後半
今井川越田94-7	1.05	2.27	23.89	57.73	1.92	1.02	1.15	0.00	10.91	0.06	100.00	土師器: 环 6世紀後半

第3表 化学分析表(土師器)(2)

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	備 考
今井川越田94-8	1.07	2.63	23.43	55.29	1.80	1.59	1.24	0.00	12.91	0.03	99.99	土師器：环 6世紀後半一端文
今井川越田94-9	0.49	0.88	23.54	60.25	0.81	0.82	1.66	0.07	11.12	0.36	100.00	土師器：环 6世紀後半一批金型环
今井川越田95-1	0.45	1.71	27.72	57.32	2.67	0.69	1.34	0.25	7.87	0.00	100.02	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-2	1.21	3.16	22.88	53.77	1.68	1.49	1.29	0.86	13.57	0.10	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-3	1.09	3.79	20.43	54.74	3.89	1.26	1.60	0.73	12.46	0.00	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-4	1.24	3.61	20.20	54.87	3.75	1.29	1.51	1.25	12.27	0.00	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-5	1.31	3.51	20.90	56.62	2.70	0.97	1.80	0.00	11.91	0.27	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-6	1.49	2.82	22.55	54.66	2.20	1.79	1.34	0.32	12.80	0.01	99.98	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-7	1.16	3.15	21.67	57.51	3.33	1.00	1.54	0.17	10.48	0.00	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-8	1.13	3.18	24.70	52.31	1.71	1.84	0.85	0.47	13.67	0.16	100.02	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-9	0.66	2.23	25.68	54.03	2.51	1.04	1.58	0.00	12.27	0.00	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-10	0.60	2.96	25.92	52.26	1.66	1.84	1.40	0.10	13.15	0.11	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-11	0.87	2.07	26.50	52.32	1.11	1.81	0.89	0.31	14.12	0.00	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-12	0.90	3.81	22.03	52.96	3.34	1.22	1.87	0.83	13.03	0.00	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-13	1.15	1.55	25.60	55.33	1.43	1.45	1.41	0.40	11.70	0.00	100.02	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-14	0.52	0.74	26.85	51.25	1.23	0.78	1.26	0.32	17.05	0.00	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-15	0.95	3.49	23.14	57.05	2.71	1.38	1.63	0.00	9.47	0.17	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-16	0.78	3.71	24.97	55.10	2.36	1.51	1.20	0.19	10.09	0.09	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-17	0.66	1.07	23.72	61.44	1.72	0.44	1.38	0.00	9.46	0.11	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-18	1.16	1.91	24.31	55.52	1.99	1.03	1.67	0.47	11.95	0.00	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-19	1.29	2.53	23.86	55.60	1.96	1.35	1.27	0.00	12.13	0.02	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-20	0.82	2.56	25.01	52.89	1.56	1.80	1.19	0.16	13.51	0.51	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-21	0.44	2.58	27.45	46.79	1.89	1.32	1.55	0.00	17.98	0.00	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-22	0.86	3.10	25.64	53.28	1.90	1.70	0.85	0.46	12.21	0.00	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-23	1.23	0.80	23.68	60.08	1.83	0.64	1.11	0.00	10.54	0.10	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-24	0.82	0.70	26.24	58.62	1.18	0.76	1.19	0.00	10.47	0.01	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-25	0.80	3.81	25.03	52.45	1.77	1.60	1.22	0.00	13.24	0.09	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-26	1.15	3.84	21.91	55.56	3.08	0.93	1.88	0.16	11.25	0.26	100.02	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-27	1.19	3.63	22.45	55.60	3.32	1.14	1.35	0.37	10.66	0.29	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-28	1.00	1.74	24.79	57.15	1.71	1.15	1.67	0.00	10.78	0.00	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-29	1.15	2.51	24.80	52.97	1.60	1.78	1.35	0.20	13.64	0.00	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-30	0.81	1.19	24.10	57.61	1.34	1.03	1.51	0.00	12.41	0.00	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-31	1.25	3.44	20.99	54.41	3.26	1.20	1.97	0.05	13.44	0.00	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-32	0.77	2.77	26.70	53.23	1.36	1.55	1.17	0.25	12.09	0.10	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-33	1.09	3.12	23.74	51.98	2.27	1.45	1.46	0.00	14.83	0.07	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-34	1.34	3.77	21.57	55.82	3.15	1.02	1.83	0.53	10.96	0.00	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-35	0.97	1.96	24.30	57.71	1.93	0.91	1.55	0.03	10.63	0.00	99.99	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-36	0.86	2.71	23.50	54.06	2.64	0.92	1.77	0.02	13.22	0.31	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-37	1.02	2.17	26.25	51.62	2.19	1.16	1.56	0.00	13.97	0.06	100.00	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-38	0.63	3.50	24.75	52.78	2.68	1.61	1.29	0.07	12.56	0.14	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-39	1.03	2.93	23.93	53.48	2.48	1.37	0.97	0.03	13.54	0.25	100.01	土師器：环 古墳時代後期
今井川越田95-40	1.65	2.64	23.26	57.99	2.29	1.87	1.47	0.13	8.70	0.00	100.00	土師器：甕 古墳時代後期
今井川越田95-41	0.76	2.12	25.68	55.81	2.75	1.60	1.37	0.00	9.82	0.09	100.00	土師器：甕 古墳時代後期

第4表 化学分析表(須慮器)

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NO	Total	備考
地神-1	0.00	0.86	18.55	72.12	2.92	0.36	1.12	0.18	3.76	0.13	100.00	須慮器: 坏 9 C
地神-2	1.33	0.91	22.01	61.99	2.22	0.37	1.50	0.14	9.52	0.00	99.99	須慮器: 坏 9 C
地神-3	1.08	0.92	20.82	66.92	1.65	0.65	1.01	0.17	6.50	0.27	99.99	須慮器: 坏 9 C
地神-4	0.70	0.94	20.65	67.76	1.23	0.67	1.16	0.00	6.43	0.46	100.00	須慮器: 坏 9 C
地神-5	0.98	1.59	24.54	58.76	2.33	1.03	1.98	0.00	8.79	0.00	100.00	須慮器: 盖 9 C
地神-6	1.77	2.04	21.07	53.96	4.02	1.20	1.41	0.57	13.76	0.19	99.99	須慮器: 盖 9 C
地神-7	0.47	0.69	19.35	71.67	3.18	0.29	0.88	0.26	3.20	0.00	99.99	須慮器: 三足壶 9 C
広木上宿-15	0.99	1.16	23.72	54.95	1.85	0.46	1.27	0.88	14.31	0.41	100.00	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-16	0.71	1.96	25.35	52.16	2.70	1.04	1.64	0.59	13.57	0.27	99.99	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-17	0.28	1.53	22.85	60.18	2.24	1.62	1.25	0.20	9.85	0.00	100.00	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-18	1.33	1.25	23.42	56.29	2.97	0.64	1.03	0.41	12.65	0.00	99.99	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-19	1.04	1.50	24.00	54.11	2.39	1.61	1.45	0.75	14.14	0.00	99.99	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-20	0.16	1.50	23.66	57.77	1.69	0.67	1.18	0.09	13.14	0.14	100.00	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-21	0.64	1.07	19.93	64.25	2.73	0.59	1.06	0.57	8.95	0.21	100.00	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-22	1.08	0.94	18.73	69.36	2.13	0.34	1.06	0.40	5.95	0.00	99.99	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-23	0.58	0.98	24.19	60.52	2.30	0.50	1.39	0.33	8.99	0.21	99.99	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-24	1.02	1.78	21.80	53.75	2.63	0.79	1.18	0.73	16.30	0.01	99.99	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
広木上宿-25	1.33	2.14	30.44	48.09	3.67	0.60	1.44	0.35	11.73	0.21	100.00	須慮器: 坏 8 ~ 9 C
児玉-15	1.33	1.60	21.40	58.02	1.97	1.60	1.49	0.72	11.88	0.00	100.01	須慮器: 坏 7 C L
児玉-16	0.36	0.51	22.88	64.39	2.41	0.25	0.94	0.50	7.76	0.00	100.00	須慮器: 坏 7 C L
児玉-17	0.73	1.76	22.74	61.55	1.16	0.79	1.37	0.60	9.00	0.30	100.00	須慮器: 盖 7 C L
児玉-18	1.32	1.27	21.98	59.45	1.42	1.11	1.34	0.01	12.00	0.10	100.00	須慮器: 盖 7 C L
児玉-19	0.69	0.69	20.31	67.79	0.42	0.86	1.04	0.00	8.20	0.00	100.00	須慮器: 盖 7 C L
児玉-20	1.10	1.73	23.95	55.51	1.38	1.08	1.60	0.78	12.87	0.00	100.00	須慮器: 盖 7 C L
児玉-23	0.54	0.61	23.74	65.67	4.51	0.50	1.07	0.06	3.30	0.00	100.00	須慮器: 瓶 7 C L
児玉-14	0.32	1.50	18.83	71.59	3.03	0.12	0.70	0.00	3.92	0.00	100.01	須慮器: 坏 8 C E
児玉-21	0.15	0.61	24.99	66.10	1.96	0.36	1.01	0.42	4.19	0.22	100.01	須慮器: 盖 8 C E
児玉-22	0.63	0.77	24.43	64.97	2.06	0.65	1.06	0.00	5.44	0.00	100.01	須慮器: 盖 8 C E
児玉-43	0.72	1.43	22.27	58.29	2.87	1.23	1.47	0.56	11.25	0.00	100.00	須慮器: 坏 8 C E
児玉-46	1.00	1.05	21.39	62.67	1.46	0.60	1.55	0.81	9.29	0.17	99.99	須慮器: 坏 8 C E
児玉-54	0.53	1.09	24.73	64.31	1.61	0.54	1.19	0.55	5.30	0.13	99.98	須慮器: 盖 8 C E
児玉-56	0.00	1.01	17.91	70.20	1.66	0.23	1.39	0.67	6.93	0.00	100.00	須慮器: 盖 8 C E
児玉-45	0.55	0.94	23.34	63.40	1.48	0.69	1.23	0.00	7.95	0.40	99.98	須慮器: 坏 8 C M
児玉-57	0.01	0.87	19.24	70.69	1.32	0.23	1.01	0.76	5.57	0.30	100.00	須慮器: 坏 8 C M
児玉-35	0.71	1.95	22.52	57.37	1.91	1.37	1.43	0.65	11.95	0.13	99.99	須慮器: 高台皿 8 C L
児玉-47	0.80	1.07	17.99	66.74	1.56	0.85	0.98	0.91	9.11	0.00	100.01	須慮器: 坏 8 C L
児玉-48	0.77	1.11	18.19	67.08	1.30	0.96	1.10	0.63	8.86	0.00	100.00	須慮器: 坏 8 C L
児玉-53	0.79	1.12	18.48	69.15	1.14	0.56	0.92	0.29	7.37	0.18	100.00	須慮器: 盖 8 C L
児玉-50	1.80	1.12	18.24	66.90	2.16	0.49	0.98	0.76	7.54	0.02	100.01	須慮器: 坏 8 ~ 9 C E
児玉-51	0.54	0.97	19.44	63.27	1.54	1.82	1.61	1.02	9.78	0.00	99.99	須慮器: 坏 8 ~ 9 C E
児玉-52	1.14	0.75	17.19	70.92	1.14	0.98	0.94	0.38	6.56	0.00	100.00	須慮器: 坏 8 ~ 9 C E
児玉-32	1.26	2.64	23.08	58.86	1.91	1.20	1.33	0.66	9.01	0.04	99.99	須慮器: 高台皿 9 C M
児玉-44	0.31	1.57	29.74	50.52	2.14	0.37	1.66	0.72	12.96	0.00	99.99	須慮器: 坏 9 C L
児玉-49	0.94	1.35	22.64	58.36	2.27	0.50	1.28	1.01	11.65	0.00	100.00	須慮器: 坏 9 C L
中堀95-16	1.32	1.18	19.61	61.00	1.58	0.56	1.18	0.08	13.31	0.19	100.01	須慮器: 碗 9 ~ 10 C
中堀95-17	0.91	0.83	22.13	59.73	1.55	0.89	1.45	0.00	12.52	0.00	100.01	須慮器: 碗 9 ~ 10 C
中堀95-18	1.54	2.73	20.67	57.09	1.58	1.76	1.23	0.34	12.83	0.22	99.99	須慮器: 碗 9 ~ 10 C
中堀95-19	1.02	1.18	19.29	65.12	2.55	1.49	0.82	0.00	8.41	0.11	99.99	須慮器: 碗 9 ~ 10 C
中堀95-20	0.48	1.17	19.53	68.44	2.32	0.39	1.08	0.00	6.59	0.00	100.00	須慮器: 碗 9 ~ 10 C
秋間-1	0.00	0.66	23.64	62.65	2.20	0.16	1.00	0.12	8.80	0.77	100.00	須慮器: 坏 9 C前半
秋間-2	0.81	1.35	17.19	68.47	3.18	0.30	0.92	0.30	7.36	0.13	100.01	須慮器: 坏 9 C前半
秋間-3	0.00	0.65	22.11	67.95	1.56	0.18	0.77	0.05	6.73	0.00	100.00	須慮器: 坏 9 C前半
秋間-4	0.00	1.04	23.59	66.59	1.81	0.27	0.99	0.00	5.70	0.00	99.99	須慮器: 坏 9 C前半
秋間-5	0.16	0.64	21.18	62.39	2.71	0.44	0.99	0.00	11.20	0.28	99.99	須慮器: 坏 9 C前半

第5表 土師器タイプ分類一覧表

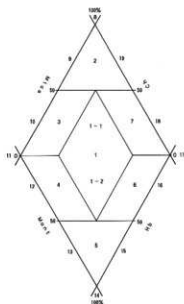
試料 No	タイプ分類	備考		試料 No	タイプ分類	備考	
地神-8	A	土師器：環	9 C	今井川越田95-7	G	土師器：環	古墳時代後期
地神-13	A	土師器：環	9 C	今井川越田95-12	G	土師器：環	古墳時代後期
兎玉-33	A	土師器：高台皿	8～9 C E	今井川越田95-13	G	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田94-7	A	土師器：環	6世紀後半	今井川越田95-21	G	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-15	A	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田95-27	G	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-19	A	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田95-33	G	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田94-5	B	土師器：環	6世紀後半	今井川越田95-36	G	土師器：環	古墳時代後期
地神-18	B	土師器：甕	9 C	今井川越田95-37	G	土師器：環	古墳時代後期
地神-20	C	土師器：合付甕	9 C	今井川越田95-41	G	土師器：甕	古墳時代後期
今井川越田95-10	D	土師器：環	古墳時代後期	地神-12	H	土師器：環	9 C
今井川越田95-11	D	土師器：環	古墳時代後期	地神-16	H	土師器：甕	9 C
今井川越田95-28	D	土師器：環	古墳時代後期	地神-17	H	土師器：甕	9 C
今井川越田95-32	D	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-3	H	土師器：環	7 C L
兎玉-8	E	土師器：甕	7 C M	兎玉-5	H	土師器：皿	7 C L
兎玉-27	E	土師器：環	8 C E	兎玉-31	H	土師器：皿	8 C M
今井川越田95-2	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-36	H	土師器：環	8 C M
今井川越田95-3	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-25	H	土師器：環	8 C L
今井川越田95-4	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-28	H	土師器：環	8 C L
今井川越田95-5	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-29	H	土師器：環	8～9 C
今井川越田95-14	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-38	H	土師器：環	8～9 C E
今井川越田95-20	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-39	H	土師器：皿	8～9 C E
今井川越田95-24	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-40	H	土師器：環	8～9 C E
今井川越田95-26	E	土師器：環	古墳時代後期	地神-14	I	土師器：環	9 C
今井川越田95-29	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-10	I	土師器：甕	7 C L
今井川越田95-34	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-11	I	土師器：甕	7 C L
今井川越田95-35	E	土師器：環	古墳時代後期	兎玉-12	I	土師器：蓋	7 C L
今井川越田95-40	E	土師器：甕	古墳時代後期	兎玉-4	I	土師器：環	8 C E
地神-9	F	土師器：環	9 C	兎玉-34	I	土師器：高台皿	8～9 C E
地神-10	F	土師器：環	9 C	兎玉-24	I	土師器：環	9 C M
地神-15	F	土師器：環	9 C	今井川越田95-1	I	土師器：環	古墳時代後期
兎玉-9	F	土師器：蓋	8 C E	今井川越田95-9	I	土師器：環	古墳時代後期
兎玉-37	F	土師器：環	8～9 C E	今井川越田95-23	I	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田94-8	F	土師器：環	6世紀後半-暗文	兎玉-13	J	土師器：蓋	7 C L
今井川越田95-8	F	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田94-6	K	土師器：環	6世紀後半
今井川越田95-16	F	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田95-17	K	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-18	F	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田94-1	L	土師器：環	6世紀後半
今井川越田95-22	F	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田94-9	M	土師器：環	6世紀後半-北型環
今井川越田95-38	F	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田94-4	N	土師器：環	6世紀後半
今井川越田95-39	F	土師器：環	古墳時代後期	今井川越田95-25	O	土師器：環	古墳時代後期
地神-11	G	土師器：環	9 C	兎玉-1	P	土師器：環	7 C M
地神-19	G	土師器：甕	9 C	兎玉-26	P	土師器：環	8 C E
兎玉-2	G	土師器：環	7 C L	兎玉-30	P	土師器：皿	8 C E
兎玉-7	G	土師器：甕	7 C L	今井川越田94-3	P	土師器：環	6世紀後半
兎玉-41	G	土師器：環	8～9 C E	今井川越田95-30	P	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田94-2	G	土師器：環	6世紀後半	今井川越田95-31	P	土師器：環	古墳時代後期
今井川越田95-6	G	土師器：環	古墳時代後期				

第6表 須恵器タイプ分類一覧表

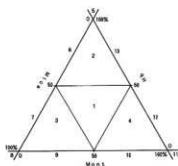
試料 No	タイプ分類	備考	
地神-1	A	須恵器：环	9 C
地神-6	A	須恵器：蓋	9 C
広木上宿-20	A	須恵器环	8~9 C
児玉-35	B	須恵器：高台皿	8 C L
児玉-32	B	須恵器：高台皿	9 C M
中壙95-17	B	須恵器：碗	9~10 C
中壙95-18	B	須恵器：碗	9~10 C
広木上宿-16	C	須恵器环	8~9 C
広木上宿-23	C	須恵器环	8~9 C
児玉-44	C	須恵器：环	9 C L
広木上宿-21	D	須恵器环	8~9 C
中壙95-19	D	須恵器：碗	9~10 C
地神-2	E	須恵器：环	9 C
地神-3	E	須恵器：环	9 C
地神-4	E	須恵器：环	9 C
地神-5	E	須恵器：蓋	9 C
地神-7	E	須恵器：三足壺	9 C
広木上宿-15	E	須恵器环	8~9 C
広木上宿-17	E	須恵器环	8~9 C
広木上宿-18	E	須恵器环	8~9 C
広木上宿-19	E	須恵器环	8~9 C
広木上宿-22	E	須恵器环	8~9 C
広木上宿-24	E	須恵器环	8~9 C
広木上宿-25	E	須恵器环	8~9 C
児玉-15	E	須恵器：环	7 C L

試料 No	タイプ分類	備考	
児玉-16	E	須恵器：环	7 C L
児玉-17	E	須恵器：蓋	7 C L
児玉-18	E	須恵器：蓋	7 C L
児玉-19	E	須恵器：蓋	7 C L
児玉-20	E	須恵器：蓋	7 C L
児玉-23	E	須恵器：瓶	7 C L
児玉-14	E	須恵器：环	8 C E
児玉-21	E	須恵器：蓋	8 C E
児玉-22	E	須恵器：鉢	8 C E
児玉-43	E	須恵器：环	8 C E
児玉-46	E	須恵器：环	8 C E
児玉-54	E	須恵器：蓋	8 C E
児玉-56	E	須恵器：蓋	8 C E
児玉-45	E	須恵器：环	8 C M
児玉-57	E	須恵器：环	8 C M
児玉-47	E	須恵器：环	8 C L
児玉-48	E	須恵器：环	8 C L
児玉-53	E	須恵器：蓋	8 C L
児玉-50	E	須恵器：环	8~9 C E
児玉-51	E	須恵器：环	8~9 C E
児玉-52	E	須恵器：环	8~9 C E
児玉-49	E	須恵器：环	9 C L
中壙95-16	E	須恵器：碗	9~10 C
中壙95-20	E	須恵器：碗	9~10 C

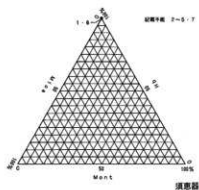
第2図 菱形ダイヤグラム位置分類図



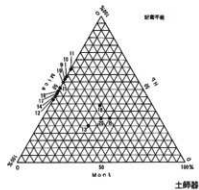
第1図 三角ダイヤグラム位置分類図



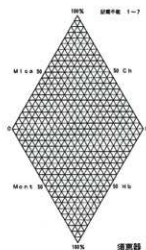
第3図 M o - M i - H b 三角ダイヤグラム



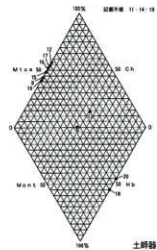
M o - M i - H b 三角ダイヤグラム

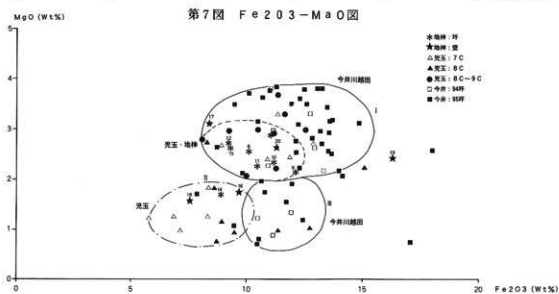
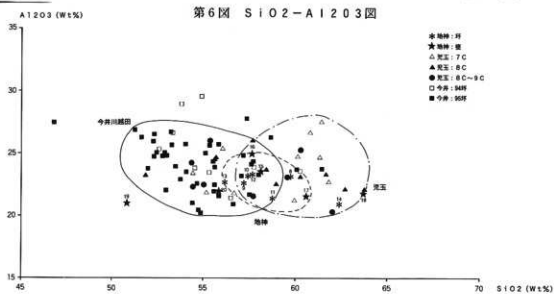
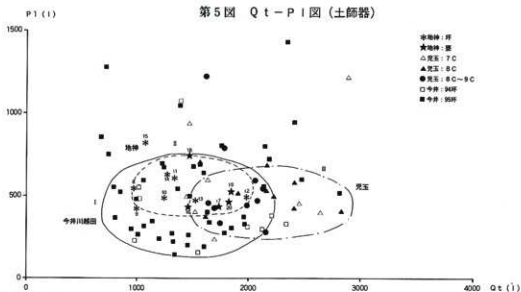


第4図 M o - C h, M i - H b 菱形ダイヤグラム

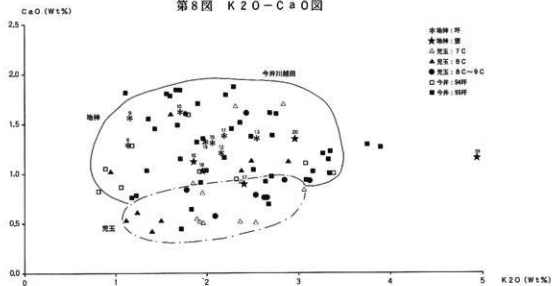


M o - C h, M i - H b 菱形ダイヤグラム

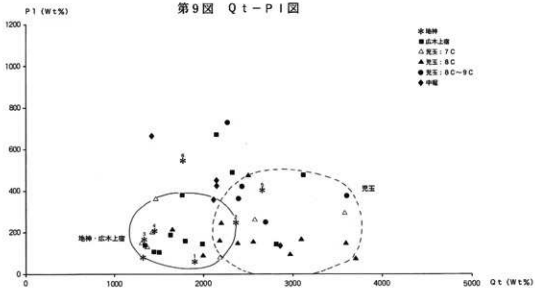




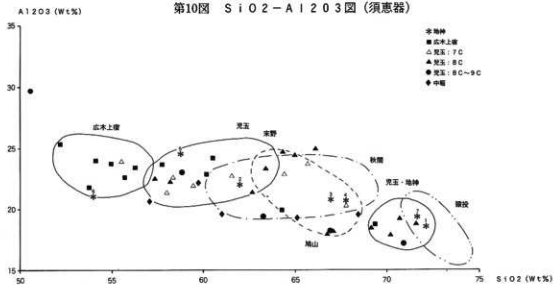
第8図 K₂O-CaO図

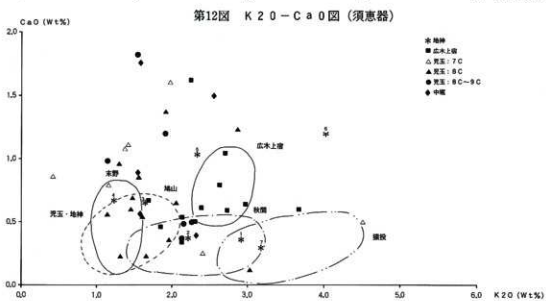
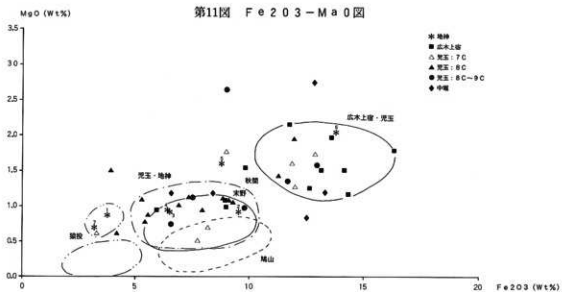


第9図 Qt-Pl図



第10図 SiO₂-Al₂O₃図 (須恵器)





写真図版



地神遺跡全景



塔頭遺跡全景



地神遺跡第1号住居跡



地神遺跡第1号住居跡



地神遺跡第1号住居跡貯藏穴



地神遺跡第1号住居跡
遺物出土状況



地神遺跡第2号住居跡



地神遺跡第2号住居跡

地神遺跡第2号住居跡
遺物出土狀況



地神遺跡第2号住居跡
遺物出土狀況



地神遺跡第3号住居跡





地神遺跡第4号住居跡



地神遺跡第5号住居跡



地神遺跡第7号住居跡



地神遺跡第 8 号住居跡



地神遺跡第 9 号住居跡



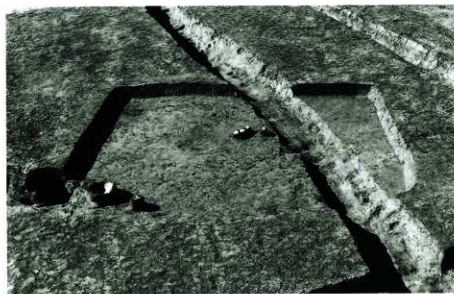
地神遺跡第 9 号住居跡
遺物出土狀況



地神遺跡第9号住居跡
遺物出土状況



地神遺跡第10号住居跡



地神遺跡第11号住居跡



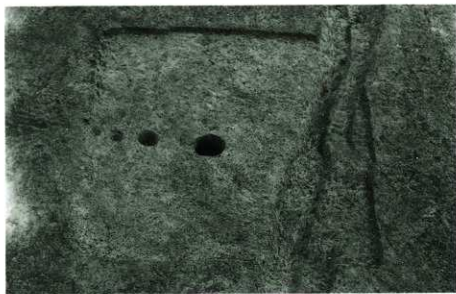
地神遺跡第11号住居跡貯藏穴



地神遺跡第11号住居跡
遺物出土狀況



地神遺跡第12号住居跡



地神遺跡第13号住居跡



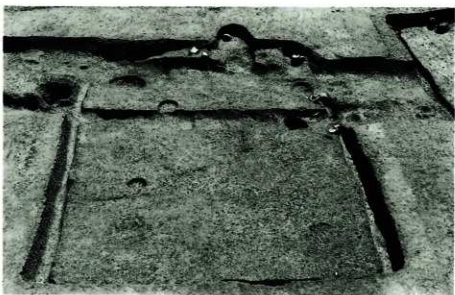
地神遺跡第14号住居跡



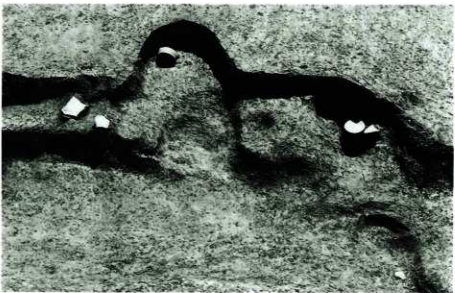
地神遺跡第14号住居跡カマド



地神遺跡第14号住居跡カマド



地神遺跡第15号住居跡



地神遺跡第15号住居跡カマド



地神遺跡第16号住居跡



地神遺跡第17号住居跡



地神遺跡第18号住居跡



地神遺跡第18号住居跡



地神遺跡第19号住居跡



地神遺跡第21号住居跡カマド



地神遺跡第22号住居跡



地神遺跡第22号住居跡カマド



地神遺跡第23号住居跡



地神遺跡第23号住居跡カマド



地神遺跡第24号住居跡



地神遺跡第24号住居跡



地神遺跡第24号住居跡



地神遺跡第25号住居跡



地神遺跡第26号住居跡



地神遺跡第26号住居跡貯藏穴



地神遺跡第29号住居跡



地神遺跡第31号住居跡



地神遺跡第32号住居跡



地神遺跡第33号住居跡



地神遺跡第34号住居跡